

特202  
918



2

0012931-000

特202-918

衡平法

橋本孝之助・〔著〕

昭文社

昭和3

ACC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権  
第67条の規定に基づき、平成12年3月2  
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの

特

918

衡

平

法

#202  
918

# 衡平法 目次



第一章	衡平法ノ起源	一
第二章	合	一
第三章	信託	三四
第四章	現代信託	六五
第五章	信託ノ設定	八五
第六章	信託ノ取消、推定、信託	一〇五



# 衡平法

## 第一章 衡平法ノ起原ソノ一

此ノ学期間余ハ衡平法理ノ主要ナルモノニ関スル特性ニ付キテ一場ノ講義ヲスルツモリナリ。余ハ茲ガ裁判所ニヨリ運用サレ居ル原存法規ノ集成トシテノ衡平法ニ付キテ諸語スルツモリナリ。然シテラ諸君ニ容易ニ理解サスル爲メニハ簡單下ラ若輩的ナル助言ヲ必要トス。吾人ガ衡平法トハ何ナルカト云フ廣同ク受ケシト假定セシ場合ニ吾人ハ只三十年以上前ニ廢止セラレタルルル裁判断ニツキテ簡單下ラ説明スルコトニヨリテソノ答ヘトスルニ邊ギズ。一八七五年ニ吾人ハ衡平法ハ衡平法裁判所トシテ知ラレ居ル裁判断ニヨリテノニ運用サレ居ル法規ノ集成ナリト云ヒシカモ知ラ

ナルモ勿論此ノ定義ハ非常ニ満足サレルモノナラザルモ今ニテハ吾人ハ  
此ノ不満足ト定義スラモ云フコトハ不可能トナリ得。吾人ハ最早ヤ軍ニ衡  
平法裁判所ナル如何ナル裁判所ヲ有セズ、斯クシア吾人ハ今ニテハ衡平  
法ハソレガ裁判所構成法ノ作用ニヨリ運用セラレザリシトセバ衡平法裁判  
所トシテ知ラレ居ル裁判所ニノミヨリ運用サル、所ノ吾ガ英國裁判所ニヨ  
リ運用セラル、法規ノ集成ナリト云ハザルヲ得ナクナリシ。今此ノコト  
ハ定義ト呼ブニ甚ダ會弱ナリト諸君ハ思フラン。衡平法ハ我ガ現存スル主  
法ノ我ル部令ナリ、尚ホモ吾人ガ此ノ部令ヲ述ヘン、ソシテ他ノ部令ヨリ  
区別スル為メニハ吾人ハ最早ヤ現存セヌ敷衍セバナラスカ然シ尚ホモ余  
ハ此レ以上ノ事ハナイト云フ事ヲ信スル。余ガニノ内一ハ衡平法々規ノ標  
ヲ作り而シテ衡平法ハソレ等法規ヨリ成立スト云フコトデアル。此ノ事ガ  
唯一ノコトニシテ何トナレバ若シ吾人ガ總テ此等ノ法規ガ共通性ヲ有シ居  
ル所ノモノハ何ナルカ及此等ノ法規ヲ吾ガ裁判所ニヨリ運用セラレ居ル地  
ノ総テノ法規ヨリ区別シ居ル所ノモノハ何ナルカト云フ事ヲ質問セラレシ  
場合ニ吾人ハ此等ノ法規ハ最近迄テ吾ガ衡平法裁判所ニ依リ運用サレ及独

リ運用サレ居タト云フ事ヲ答フル外何事モ無イ  
ソレ故ニ我ガ法律ノ現状ヲ了解セシムル為メニハ或ル沿革ガ必要トナル  
余ハニニ言葉ヲ讀シテ主要ノ語ヲスルツモリナルモ諸君ハ余ガ此知ニ揭グ  
ル *Story, Lewis, Ashburner, Strachan, Holdsworth* ノ様ナ  
又ハヨノ衡平法上ノ裁判ノ様ナ書籍ニツキ一読スル必要アリ。  
*Edwards I* ノ時代ニ即チ十三世紀ノ終リニ三大裁判所ガ現出シタ、  
即チ王立裁判所、普通裁判所又ハ *court of Common Pleas* 及 *Exchequer*  
*Chancery* ナリ。之等ノ各裁判所ハソレ自身固有ノ範圍ヲ有シ居リシガ  
時ガ経過スルニ從ヒテソノ範圍ヲ拡張セント努力シ中世紀ノ終リ以テハ  
原告ハ之等三ツノ裁判所ノ間ニ選択權ヲ有シ而シテ各裁判所ガ原告ノ事件  
ヲ同ジ方法ニヨリ及同ジ法規ニヨリテ取扱ヒ居タリ。此等裁判所ガ運用ス  
ル所ノ法律ハ一部ハ慣習法ニテ一部ハ成文法ナリステニエエノ時代ニ普  
通性ト云フ言葉ガ行ハレテ居ル、ソノ言葉ハ法律學者ガ公衆會ノ一取法  
ヲ不スタメニ *pro communis* ヲ用ヒシ為メ起リシモノナリ、ソノ普通法

ハ不文法アリ又英本国ニ共通シ凡テ英國人ニ共通スル所ノアリ法律ノ部  
今ヲ述ビ居ル、ソレハ成文法地方ノ慣習的皇室特権ノ計象サレ居ルガ未ダ  
ソレハ衡平法ノ名ヲ有シ居ル法規ノ身成ハ兼カリシ故衡平法トハ対象サレ  
居ラズ三ツノ裁判所ノ内ノ一即チ衡平法ハ普通法裁判所ヨリ以上ナリ、吾  
現代酌見地ヨリスレバソレハ普通法裁判所ナルノミナラス官庁アリ管理  
局又ハ執行局ナリ、現在ノ大蔵省ハ此ノ首ノエカラノ公衆ナリ、吾人ガ英  
國ノ民事ト呼ブ所ノモノハ二ツノ大キナ省又ハ省ニヨリテ行ナハレ居ル、  
其外ニハ大蔵省ナル如ク、巨ガアリ國務省ナル如ク、衡平法裁判所ガアル、此  
等ノ上ニ枢密院アリ、衡平法裁判所ノニ大法官ガ居ル通常ハ大僧正ガア  
ル、彼ハ各省ニ對スル王ノ國務卿ナリ、而シテ彼ハ王ノ玉璽ヲ尙藏シ及ビ  
王ノ名ニ依リテナサレナケレバナラス多數ノ書類ハ大法官ノ監督ノ下ニ為  
ナル、

彼ハ不ダ裁判官ナラザルモ既ニ彼ハ自ラ又ハ部下ニヨリア主権ノ運用ト  
憲法ノ關係アル多數ノ仕事ヲ有シ居リシ彼ガ支配シ居ル書記官ノ事務ノ一

ハ裁判所ニ於テ訴訟ガ開始セラル、令状ヲ作成シ発スルコトナリ、此ノ令  
状ハ王印ヲ以テ捺印サル、訴訟ヲ開始セントスルモノハ衡平法裁判所ニ行  
キソノ令状ヲ得ル可シ、ソノ多クノ令状ハ、以テ組織立テラレ居ル此ノ  
令状ハ *Writ de curia* ト呼バル、此ノ令状ヲ *custitors* ト呼バル  
、書記官ニ請求シテ及相与ノ報酬ヲ支拂フ事ニヨリテ得ル事ヲ得ルシテ  
大法官ハ新シイ事件ニ適志スル新シイ令状ヲ発案スルニアル制限的ノ权限  
ヲ有シタソノ取限ハ令状場合ニ於テ令状ヲ発スルコトヲ得ルアノ有者ナル  
事ニハ條令ノ條項ニヨリ神聖シサレ居ル斯クシテ大法官ハ屢々、事件ガ或ル  
新シイ而シテ特殊ノ言葉ヲ用ヒシ令状ヲ必要トスルモノナリヤ否ヤヲ考案  
セザル同カラズ而シテ此ノ事ハ裁判事務ニハ非ズ、此ハ当事者双方ノ須  
求ヲ圖ク事ニ原告ノ云ヒ令状ヲ圖キ而シテ令状ヲ与フレバ普通裁判所ハソ  
ノ後ニ至リテ此ノ令状ヲ圖法違反トシテ破棄スル  
然シテ他ノ方法ニヨリテ大法官ハ主権ノ運用ニヨリ一層憲法ニ接觸ス  
ル様ニナツタ此等ノ大キナ普通法裁判所ハ確立サレシモ尙裁判所ノ一部

ハ王ニ留保サレ居ル、何処ニ行キテモ放奔ヲ得ラレナイ所ノ人ハ或ル放奔ノ爲メニ報酬ヲ私ヒ王及樞密院ニ請願書ヲ提出ス、既ニ十三世紀ノ終リギハニハ毎年提出サル、斯ル請願書教ハ非常ニ多ク而シテソレヲ讀ミ、ソレヲ考察スル仕事ハ非常ニ骨ガ折レク、實際此ノ仕事ノ大部分ト云フモノハ大法官ノ双肩ニ担ハサレタ、彼ハ總理大臣ヲアリ樞密顧問官ヲアリ而シテ學識経験ニ富メル者ナリ此等ノ請願書ヲ取扱フ事ニヨリテ大法官ハソノ裁判权ヲ伸長シ初メタ、時ヲ経ルニ從ヒテ彼ノ裁判权ハ二種類ニ分類サレタ、衡平法裁判所(Ch. C.)一何トナレバ此ノ言葉ハ十四世紀ニ使用サレシ故ニ一ハニツノ側即チ普通法側ト衡平法側即チラテ人語ニテ書カレシ側ト英語ニテ書カレシ側トアリ、一寸此等二種ノ权限ノ期限ヲ考察ヒン、先ズ吾人ニ最モ關係ノ少キコトガヲヨリ始メシ

(1) 余ガ語りシ如ク此等請願書ノ多クハ王ヨリノミナラズ王ニ對シテ裁判ヲボメ居ル誰カバ不法行為者ト云ハレ居ルナラバソレハ王自身ナリ、例

ハバ王ハ彼ノ彼人ニヨリテ本當ニ改厝地人ガソノ相続人ニ殘セシモカ、ハラズ地所没収トシテ占有サレ居ル所ノ土地ヲ占有シ居ル今ハ王ハ訴ニヨリテ訴ヘラシメ、令状ハ王ニ對シテ行ハレヌ、相続人ガ裁判ヲ欲スルナラバ謙遜助ニ裁判ヲ請願セザル可カラズ此ノ様ナ事項ハ大法官ニ向ケラレタ今統ハ彼ノ蘇ニ行ハレ相統人ハソウアリシカモ知レザルモ彼ノ事件ヲ証明シ而シテ彼ノ土地ヲ得ル、王ガ關係セシ所ノ斯ル事件ノ數ハ多ク王ハ常ニ此些細ノ事項ニ基キテ土地ヲ占有シ居ル而シテ他人ヲシテ王ノ权利ヲ認ムル様ニ強制スル次第ニ全ク規則正シキ而シテ普通ノ手続ハ斯カル事件ニ對シテ確立サレタ、ソノ手続ハ三ツノ普通法裁判所ノソレトヨク似テ居ル、今統ハラテ人語ニテ了度ニツノ普通法裁判所ノ手続ガラテ人語ニテ記録サレ居ル様ニラテ人語ニテ記録サレテ居ル、大司法ノラテ人語ニテ記録サレテ名付ケテ云フナリ、而シテ事實問題ノ起キシ場合ハ陪審官ニヨリ審理サル、法官自身ハ陪審官ヲ召集セズ、又ハ審問ヲ監督セズ彼ハ審問事項ヲK. B.ニ送ル、凡テ此ノ事ハ決シテ重要ナラザルハナキモ現在此ノ場合ニ於



余リ吾人ニ關係ナシ。

(II) 非常ニ辱、請願者ハ或ル他ノ人ヲモ犠牲ニ供シテモ或ル放済ヲ要求ス。彼ハ何等カノ理由ニテ普通ノ裁判所ニ於テ放済ヲ得ルヲ得ズ而シテ尚ホモ自今ハ放済ヲ受クル権利アリト云フヲ哀訴スル。彼ハ窮シ老、病弱ニテアリ相争ハ富、老ク、踰路ヲ使ヒ又ハ陪審官ヲ強迫スル又ハ或ルカラクリニスハ或ル事項ニヨリテ形式的守統ヲ有スル所ノ普通裁判所ガ相争ヨリ奪フ事ノ得ザル利益ヲ獲得スル請願ハ辱、哀訴的ノ言葉ニテ示サレ玉ハ神ノ為メ及慈善ノ為メニ放済ヲ見出ス可ク要求サル。斯カル請願ハ王ニ依リテ大法官ニ向ケラルル。ニ十四世紀ニハ請願者ハ王ノ知ニ行ク更リア直接ニ大法官ノ下ニ行キ彼等ノ訴訟ヲ大法官ニ宛テ而シテ神ノ為メニ及慈善ノ為メニ正義ヲ為ス可ク懇願スル今マ大法官ガ斯カル場合ニ於テ為シ得ル一ツノ事ハ新令状ヲ発案シ而シテ普通法裁判所ニ告訴スル守統ヲ原告者ニ与ヘル。然シテ十四世紀ニ於テハ普通法裁判所ハ非常ニ保守的ニナリ既ニ使用

サレ居ル令状トハ戻願的ニ異ナレル令状ヲ破棄スル事ニ没頭セリ。然シテラ大法官ガ為シ得ル他ノ事柄ハ原告ノ相手方ニ送達シ而シテ相手方ヲ相手方ニ対シテ為サレシ責務ニ関シ審訊スル。ニ守統ハ確立サレ大法官ハ請願書ヲ考察シテ相手方ニ出頭ヲ命ジ而シテ原告ニ答フルコトヲ命ズ。彼ガ為ス令状ハスト呼バレル。何トナレバソレハ一定金額ヲ没収スル事ヲ條件トシテ出頭ヲ命ズソレハ訴訟ガ普通法裁判所ニ於テ訴訟ヲ開始サル、曰令状トハ非常ニ異ツテ居ル。彼等ハ被告ニ彼ニ対スル訴訟原因ガ何デアルカト云フ事ヲ語ル。即チ被告ハ何故原告ヲ攻撃シ政打シタカラ何故原告ノ土地ヲ不法占有シタカ何故原告ニ属スル動産ヲ窃取セシヤヲ答ヘネバナラス。之ニ及シテ召喚状ハ彼ニ被告大法官ノ或ニ彼ガ出頭シ而シテA、Bニ依リ彼ニ対シテ為サレタ告訴ニ答ヘルト云フ事ヲ語ル。彼ガ大法官ノ前ニ来リシ場合ニ彼ハ宣誓シテ述べネバナラス。而シテ原告ノ請願書ニヨリテ宣誓スルコトノ守統ハ寧ろ吾等ノ英国ノ普通法裁判所ヨリハ宗教裁判所。宗教法ノ守統ニ似テ居ル。此ノ守統ハ實際宗教裁判所ノ普通ノ守統カラアハナク

シテ異教鎮座ノ爲メニ施行セラレシ裁判所ノ簡易手続カヲ惜リラレタモノ  
ナリ、被告ハ宣場ニヨリ審訊サレ而シテ大法官ハ法律問題ノミナラズ事實  
問題ヲモ決定スル

十四世紀ニ大法官ハ普通ノ國法トハ異レル一教ノ主法ヲ運用セネバナラ  
ズト考慮シ居リシトハ余リ考ヘズ、彼等ハ法律ヲ運用シ居リシモ彼等ハ普  
通裁判所ノ細ヲ脱セシ事件ニ於テソレヲ運用シタ、彼等ノ或ニ提出サレシ  
訴訟ハ明白ナル法律上ノ不法行為即チ攻撃政打不法監禁土地ノ不法占有ソ  
ノ他普通裁判所カ救済ヲ認メシ不法行為ニ因スル一取敢ノ訴ヘナリ、然シ  
テ何事カノ理由ノ爲メニカ、ル不法行為ハ常ニハ普通裁判所ニヨリ救済  
セラレナカツタ、此ノ時ニ於テ原告ガ大法官ニテ手ヘル如ノ理由ノ最モ普  
通ノ一ツハ彼等ハ窮シ居リ彼等ノ相手ハ余リニ富ミ勞力アリテ古イ裁判所  
ノ下手ナ手続及陪審官ノ判決ニ任シ居ルト云フ事ハ余余ナイト云フコトナ  
リ、然シテ此ノ種ノ事柄ハ尤今受ケ入ルコトハ不可ナリ、普通法裁判所  
ハソレヲ受ケ入レズ議會モ亦ソレヲ受ケ入レナイコトノ特別裁判ニ對スル訴ヘ

ガ十四世紀ニ非常ニ盛シクナリ、若草上及理論上ソレハ尚ホモ一層及對サル  
、他ノ種ノ特別裁判即チ憲法院ニヨリテ刑事々件ニナサル、特別裁判ト憲  
府ニ因連シ居ル議會ハ一時ニ憲法院ノ刑事々件ニ於ケル関与及大法官ノ民  
事々件ニテ手ヲ新スタデアラウ、而シテ大法官ハ普通法ノ方面カラ警戒サ  
レ彼ハ普通裁判所ニ行ク如ノ事件ヲ聞カズ彼ハ不法行為及契約動産不<sup>動</sup>産上  
ノ取敢ノ裁判官タル事ヲ得ナクナリシ、然シテテ度此ノ時普通法裁判所  
ニヨリ爲サレナカツタ或ル便宜ナ而シテ有用ナ仕事ヲ大法官ガ爲シテ居ル  
ト云フ事ハ明カニナレリ、彼ハ信託法ヲ実行シ初メタ、信託法ノ起源ニツ  
キテハ余ハ他ノ議會ニ於テ何カ述ヘントス、余ハ信託法ヲ外國ノ物トハ信  
セズ、余ハ乃チヨ法カラ来リシト云フコトモ信セス、余ハ信託法ハ古キ英  
國法ノ自然結果ナリト信ズ然シテ免<sup>角</sup>私ハ國民ノ大多數又ハ十四世  
紀ノ普通法學者ガ嫌惡ノ情ヲ以テ信託法ヲ此メタト云フ事ヲ諸君ニ信ジテ  
モライタクナイ、疑ヒモナク信託法ハ厄今ナモノナリ、此レハ訴訟ノ目録  
ノ爲メニ使ハル、而シテ承代寄附ノ法律ヲ脱スル爲メ又ハ債權者ヲ訴訟ス

ル為メニ信託ヲ利用セシモノニ對シ條令ハ看過サレタ。然シテ余ハ疑ヒモ  
無ク信託ハ非常ニ普及サレ而シテソコニハC(衡平法)ガナク普ノ裁判所  
ガ之等信託債務ヲ強制スル或ル方法ヲ發見セシナラント云フ事ヲ考ス。然  
シテ此ノ方法ハ下等ナ方法ナリシナラン。被告ニ於テ強制セズ許シモ  
カヘセヌ所ノ法律制度陪審官ニ事實問題ヲ送附スル制度ハ適當ニ信託關係  
ヲ取扱フニ適シテ居ラヌ。此レニ及シ大法官ハ此ノ目的ニ非常ニヨク適合  
セシ手続ヲ有シ居リシ。余ハ此處ニ宗教法裁判所(大法官ハ宗教ニ宗教家  
ナリシガ)ハ長イ間靈的苦痛ニヨリ刑罰ニヨリ及破回ニヨリテ信託違反ヲ  
罰シ居リシト云フヲ附加セザルヲ得ズ一般刑ノ懲答ニヨリテ大法官ハ信託  
ヲ実行スルコトヲ許サレタ斯クシテ主法ノ一大方面ハ大法官ノ手ニ取シタ  
ソレハ非常ニ価値アル方面デアル何トナラハ十五世紀ニ於テ信託ハ常ニ普  
及サレシ故ナリ。吾人凡テガ知ル如クHハ在ハ信託ニ一大打擊ヲ与ヘタ。  
王ハ信託ノ廢止ニヨリテ利益ヲ得得失セヌ王國ノ一人者ナリ。而シテ吾人  
ノ凡テガ知ル如ク彼ハ單ニ法律ヲ複雜ニスルコトニ從事セリ。如何トナラ

ハ信託ノ名ノ下ニ大法官ハ依然彼ノ古方面ヲ支配シ居リシ故ナリ。眞然ニ  
ハ彼ノ裁判所ニ正当ニ屬スルモノト考ヘラレシ或ル事項ガアツタ。古歌ニ  
詠歌。事故信託違反ノ之等ノ三ハ良心ノ裁判所ニ優越ノ地位ヲ占ムト云フ。  
大意ヲ彼ニ与ヘテ居ル。ソコニハ普通法裁判所ノ最。ヤ手続ガ適當ニ適  
用セラレヌ多クノ詐欺ガ有ツタ。而シテ事故特ニ証書ノ偶然的損失ハ大法官  
官ノ手ニ屬スル適當ノ場合デアツタ。何ハモガ彼ノ权限ニ非常ニ嚴格ノ  
制限ヲ設ケザルモノノ範圍ニ付キテ十六世紀ニ与ヘラレシ最善ノ指示ハ詐  
欺事故信託違反ト云フ言葉ニヨリテ示サレタ之ニ及シテ彼ハ普通法ノ裁判  
所ガ適當ノ救済ヲ与ヘシ場合ハ干渉スルヲ得ズ。  
十六世紀ニ於テハ吾人ハ大法官ハ斯クシテ大法官ニ与ヘラレタ方面ニ於  
テ運用シテ居ル法規ニ付キテ火シバカリ知リ初メタ。此ノ法規ハ衡平法規  
及良心ノ法規トシテ知ラレテ居ル。彼等ガ昔ニ於テ為シタ事柄ニ付キ吾人  
ハ非常ニ火中証如ヨリ推論セヌバナラヌ。或ル事柄ハ可成ク明白ナリ。彼  
等ハ洗禮ニヨリテ嚴格ニ拘束サレ居ルトハ為ヘズ。普通法裁判所ニ於ケル

吾人の判決録ハE.I.ノ時代ニ達及スル中在紀ハ長巻ノ判決録ニ依リテ吾人ニ示サレテ居ル此ノ事ヲ記憶スヨ。之ニ及シテ衡平法裁判所ニ於ケル吾人ノ判決録ハ千五百五十七年ヨリ迄カ達及セズ一千五百五十七年ト一千六百六十一年ノ王政復古ノ間ニ吾人ニ来ル多数ノ判決録ハ大シタモノナラズ、ソレ自身コノ事ハ大法官ガ判例法ニヨリテ嚴格ニ拘束サレテ居ラナカツタコトヲ吾人ニ示スニ充分ナリ尚ホ亦余ハ非常ニ大法官ガ万ノ法ヨリ借リシコトハコノ事ハS.氏ガ万ノ法化スルコトニ對シテ論ジテH.氏ガソレニ及杭シテ論争セシ事項ナルガ万ノ信ニイテ疑ヒモナク宗教法ノ媒介ニヨリテ之等大宗教學者ハ万ノ法典ニ表ハレタ所ノ格言ノアル物ヲ熟知シテ居タ、宗教法ノ戒ル部今ハ即チL.S.ハ時ニ先ンズルモノハ裁判ニ於テ優者ナリト云フ有名ナ格言ノ末ヲ以テ終結セリ、格言ハ衡平法ノ判決録ノ凡テノ読者ニ熟知ノコトナリ、疑ヒモナク昔ノ大法官ハ之等ノ格言ヲ了知シ而シテ価値付ケシモ余ハ万ノ法ノ知識スハ英國法ヲ万ノ法化スル意志ガ此ノ格言ニ負フ知多クナリシト云フ事ヲ信セズ、例ハバ余ノ心ニハ英國ノ

所謂ニ重所有取ト万ノ法ノ所謂ニ重所有取トノ間ニ劃サレシ比較ハ今等ノ物ノ如ク思ハル、信託ノ取扱ニ於テ大法官ハ普通法ノ法規ニ非常ニ密接ナリシ、彼等ハ屢々、裁判官ト強議シ而シテ裁判官ノ部ニテ弁護セシ弁護士ハ普通法ノ弁護士ナリヤ、如何トナレバ衡平法裁判ノ弁護士亦ガ亦タナカリシ故ナリ、結局余ノ意思ハ彼等ノ心ニ自然ノ觀念ヲ以テ学説判例ニ融ル、コトナク彼等ガ事件ヲ決定シ今ヤ普通法ヨリ施行サレシ推論ヲ利用シ而シテ宗教法學者スハ万ノ法學者ヨリ借リシ知ノ法制ノ有名ナル格言ヲ引用シ居ルト云フコトヲ云ハントスルニアリ、  
十六世紀ノ中葉ニ於テ裁判所ノ法則ハ確立シ宗教家出ノ大法官ノ時代ハ過ギ去リW.氏ハH.G.I.ノ時代ニ吾人ハD.W.氏ト云フ傑高ナル人物ヲ有セシモノ、宗教家出ノ大法官ノ最後ノ人ナリE.B.C.ハ判決録ノ形ニ於テ公衆ニ知ラル、標ニナリシ既定ノ法規ヲ運用シ始メ而シテ彼等ハ守統法規ヲ公布シ初メタ、丁Iノ御代ニ大法官E.氏ト裁判長C.氏ト、間ニ大論争ヲ惹起シソノ結果衡平法裁判所ニ勝シテ居ルト云フ事ガ決定サレタ

衡平法裁判所ガ信託及詐欺ニ付キテノ格言ヲ実行セシ場合ニハ人ヲ普通法  
裁判所ニ行クコトヲ妨ゲ而シテ普通法裁判所ニ於テ得シ判決ヲ実行スルコ  
トヲ妨グル権能ヲ有セネバナラヌト云フコトガ必要ナリ、詐欺又ハ信託違  
及ニ於テ諸君ガ余ニ對シテ普通法裁判所ニ於テ判決ヲ得ルトセバ余ハ大法  
官ニ哀訴シ而シテ大法官ハ諸君ガ云フ可キ事項ヲ圖キシ後諸君ノ判決ヲ実  
行ス可カラズト命ズ、ソノ事ハ結果ニ於テ若シモ諸君ガ判決ヲ実行スルナ  
レバ救獄サル、ト云フコトヲ意味スルナリ、衡平法裁判所ハ決シテ普通法  
裁判所ニ勝セリトハ確信シテ居ナカツタト云フ事ヲヨク理解セヨ、決シテ  
K. B.ノ裁判所ガ常ニ下級裁判所ニ送付シ而シテ下級裁判所ニコノ事ヲ為サ  
ネバナラヌ又ハ為シテハナラヌ又ハ彼等ノ手続ヲ破棄ス可シト命ジタ條十  
命令ヲ彼等ニ送ラウトハ想像シナカツタ、法官ノ禁止命令ハ理論上作為  
命令移送命令等トハ非常ニ異ナレルモノナリ、禁止命令ハ裁判官ニ送付サ  
レズ當事者ニ送付サレタ、信託違及ニ於テ諸君ハ判決ヲ得大法官ハ此ノ判  
決ハ違法ニキヘラレシモノナリトハ云ハズ彼ハソノ判決ヲ無効ニセサルモ

假ハ諸君ノ了知セル理由ニヨリ此ノ判決ヲ実行スルト云フ事ガ諸君ニトリ  
不衡平デアリ而シテ諸君ハソレヲ実行スルコトヲ得ズト告知スル、然シテ  
ラ特ニ裁判官ガ此ノ判決ノ取扱ヲ不快ニ感ジタト云フコトハ当然ノコトナ  
リ、C氏ハ次ノ如ク宣言セリ即チ斯カル禁止命令ヲ得シ者ハP條令ニヨリ  
テ知斷サル、犯罪即チ王ノ裁判所ノ判決ヲ他ノ裁判所ニ向題トスルハ犯罪  
トナルナリ、丁王ハ今ヤ凡テノ裁判官及裁判所ヲ支配スル機会ヲ捕ヘ而シ  
テB氏ソノ他ノ大法律家ノ宣言ニ動カサレテ彼ハ衡平法裁判所ニ有刑ノ令  
令ヲ発シタ、此ノ時以後衡平法裁判所ハ普通法裁判所ヨリ優劣地位ヲ占メ  
タ、衡平法裁判所ハ普通法裁判所ニ勝レリトハ主張セザルモノソレ等裁判所ニ  
人々ガ行クノ妨ゲル事ヲ得シナリ、之ニ及シ普通法裁判所ハ人々ガ衡  
平法裁判所ニ行クノ妨止スルコトヲ得ザリシナリ、  
斯クシテ衡平法裁判所ノ独立ハ確保サレ非常ニ急ガシキ裁判所トナレリ  
B氏ハ曰ク「自今ハ一年ニ二千ノ命令ヲ出シテ吾人ハ一万六千程ノ  
事件ガ一時ニ裁判所ニ来テ、終ニ在ツタト云フ事ヲ認サレタ實際ソレハ絶

望約ニ仕事ハ遅滞シテ居タ。英和政府ハ一千六百四十九年——一六八〇年  
 ノ下ニ或ル猛烈ナル計画ガソノ手続ヲ改止スルタメニ為サレタ。或ル畫ハ  
 全クソレヲ廢止ト云フ事ニアツタ。衡平法裁判所ハ屋室裁判所ノ及びノ姉  
 妹ナリト云フ事ハ容易ニ忘レラレナカツタ。改造ノ画ハ王政復古ト共ニ有  
 減シタ。王政復古又ハソノ切カラハ勿論正確ナル日ハ定マラザルガ一吾人  
 ハ衡平法裁判所ニ於テ運用サレシ衡平法ヲ國法ノ承認セラレシ部令ト看做  
 スニ至レリ。序ニハ非ザルモ序ニ玉璽ハ大法律家ガ所有シテ居タ。一六六七  
 年ニハ大讓渡証書作成家タルS. O. B. G. ガソレヲ有シ一六七三年ニハS. H. F.  
 氏ガソノ後衡平法ノ父ト呼バレレ。N. 氏一六八二年ニハS. F. N. 氏ソノ後レ。G.  
 氏一六九三年ニハS. J. S. 氏ソノ後大普通法學者タルL. S. 氏等ナリ。余ハA.  
 A. 氏ガソレヲ有シタ最後ノ非法律家デアツタト考フ。而シテ彼ガ一六七二  
 年一六七三年ニ至ル其ノ一年間ソレヲ有シテ居タト思フ。一八世紀ノ間ソ  
 コニハ多教ノ大法官ガ現出シ即一七〇五年ニハC. 氏一七一三年ニハH. 氏。  
 一七二五年ニハK. 氏一七三三年ニハT. 氏一七三七年ニハH. 氏一七五七年ニ

ハW. 氏一七六六年ニハC. 氏一七七八年ニハT. 氏一七九三年ニハL. 氏一八〇一  
 年ハE. 氏等ナリ。此ノ世紀ニ於テ衡平法裁判所ノ判決ハ改良サレタ。長年  
 普通法裁判所ニ於ケル裁判官ノ裁判ヲ報道スル為メニ費サレタト全條ノ注  
 意ガ大法官ノ命令ヲ報道スル為メニ費ヤサレタ。次第ニ衡平法ノ裁判所ノ  
 弁護士席モ組織サレ即チ或ル弁護士ハ大法官ノ並テ弁護士事務ヲ執ル株ニ  
 ナリ而シテ何処ニモ仕事ヲ求メザリキ。遂ニ衡平法ハ國法ノ一部トシ及重  
 要ナル部令トシテ教科書ニ表ハレタ。從來ノ此ノ世紀ノ最モ有名ナル教科  
 書ハ言フ必要ナキモB. 氏ノ註訳書ナリソレハ此ノ世紀ノ中京カラ吾人ノ知  
 ニ表ハレシナリ。而シテB. 氏ノ衡平法ノ見解ニ付キテハ余ハ本章ニ亘リテ  
 論セントスルナリ。

## 第二章 衡平法起原

英國衡平法ノ簡單ナル序述ヲスル為メニ吾人ハB. 氏ノ時代ニ遡及シタ大註

家ノ衡平法ニ関スル見解ヲ觀察セシ、彼ハ衡平法裁判所ノ所謂衡平法ハ  
實質ニ於テ法律ナルコトヲ示シテ居ル、而シテ彼ハ又三ツノ旧裁判所ノ  
所謂法律ハ觀察上衡平法ナルコトヲ示シテ居ルト考ヘテ居ル余ハ彼ノ少  
長キ批評ヲ読ム、何トナレバ極値アル、ヲ包含シテ居ル故ナリ、彼ハ二  
ツノ裁判所間ニ普通法ト衡平法ト互ニ対立シテ設クルコトニ依リテ一線ヲ  
劃スルノ定義又ハ、ハ又ニ全然誤謬デアリ又ハ或ル程度マデ誤リナリト  
云フコトヲ見出スノデアルト云フ事ヲ確信シテ説明ヲシテ居ル、ト斯クシ  
テ第一ニ普通法ノ嚴格ヲ緩和スル事ガ英國ニ於ケル衡平法裁判所ノ業務ナ  
リト云フコトガ云ハレテ居ル、然シテラカ、ル能ハ争ハレズ、困難ハ檢  
印証書ニヨル債取者ノ債務者ガ不動産ヲ遺贈シク場合ニ生ズル、受遺者ヲ  
相続人ヨリ好キ状態ニ置ク法規ハ嚴格ナシテ不當ナ物ナリト云ハネバナ  
ラメガ、ソレニテモ衡平法裁判所ハソレニ干渉スル何等ノ制限ヲ有セズ  
困難ハ普通法ニモ尚ホ行ス、即チ遺贈セシ土地又ハ相続人ニ取スル土地ハ  
先祖スハ遺贈者ノ單純契約ニ依ル債務ニ責任ナシ、而シテ父ハ次シテ直チ

ニ息子ノ不動産ヲ受継スルコトハ不能ナルモ衡平法裁判所ハ何等放棄ヲ予  
ヘズ此ノ兩者ノ場合ニ於テ封建制度ヨリ生ズル法律ノ廢止的理由ハ長イ以  
前ニ余ク止メラレタ、彼ハ困難ナル古キ法規ノ他ノ場合ヲ説明シテ居ル、  
何トナレバソノ嚴格ヲ衡平法ハ緩和スルヲ得ザレバナリ、  
(一) 衡平法裁判所ハ法規ノ精神ニヨリ決定シ而シテ文字ノ嚴格ニ依リ決定  
スルモノニ非ズト云フ事ガ云ハレテ居ルガ又衡平法モ同様ナリ、此ノ二者  
ノ場合ハ立法者ノ眞意ニ依リ餘又チ等シク解釈スル義務アリ  
(二) 又詐欺、事故、及信ハ衡平法裁判所ノ特ナル目的デアルト云ハレテ居  
ル、ガ彼ハ凡ソノ詐欺ハ等シク普通法裁判所ニヨリ認めラレ或ルモノハ普  
通裁判所ニ於テノミ認めラル、ト主張スル多クノ事故ハ普通法裁判所ニ於  
テ放棄セラレタ、而シテ普通法裁判所ガ專門的ニ信託ト呼バル、及ノ物ヲ  
認知セザルト云フ事ハ事實ナルモ尚ホ裁判所ハ實際信託デアアル及ノ等語ヲ  
認知スルノデアル  
(三) モウ一度云ハバ衡平法裁判所ハ法規又ハ先例ニ依リテ拘束サレズ

シテ特別ノ場合ノ事情ニ基キシ裁判官ノ意見ニヨリ行動スル然ルニ吾衡平  
法裁判所ノ制度ハ先例ニヨリテ支配サレタ骨折ラレタ関連アル制度デア  
斯クシテ妻ノ寡婦産ヲ信託財産ニ為スコトヲ拒絶シテラ夫ノ寡婦産ヲ許ス  
而シテ彼ハ疑ヒモ無ク正シキ法規ノ他ノ説明ヲ与ヘテ居ル。凡テ此等及偶  
然起ル他ノ場合ハ明カニ助法ノ法規ナリ。彼ハ結論シテ居ル吾普通法及衡  
平法裁判所ニ於ケル法律制度ハ正義ト助法ノ同ジ原則ニ基キシ等シク人々  
的ノ制度ナルモノノ守統ノ形式方法ニ於テ異ナツテ居ル普通法ハ本末封建  
的慣習ヨリ得ラレタモノナルモ、衡平法ハ宗教家出ノ大法官ニ依リ行ハレ  
シモノ及宗教法ノ形式ニ依リテ得ラレタモノナリ。衡平法ハ過去ハ如何  
様ナリトモ現在ハ國法ノ一部ナリ。如何ナル部分ナルカソレハ衡平法裁判  
所トシテ知ラレタ或ル裁判所ニヨリテ運用セラレシ部分ナリ。吾人ハ他ノ  
一般助ノ答ヘテ答ヘルコトハ不可ナリ。吾人ハ若革助ノ説明ヲ与フル事ハ  
得。例ヘバ普通法ハ封建的慣習ヨリ得ラレ一方衡平法ハ乃チ法及宗教法  
ヨリ得ラレシモノナリ(余ガ考フルノニB氏ハ衡平法ハ若革ニ於ケル乃チ

コト法宗教法ノ影響ヲ非常ニ高ク評価シテ居ル)ト云フ事ヲ云ヒ得ル。然シ  
テラ一般助善景ニ於テ吾人ハ衡平法ノ方面又ハ衡平法規ノ顯著ナル特色ヲ  
敘述スルヲ得ズ勿論吾人ハ衡平法規ノ目錄ヲ作成スル事ハ可能ナリ。然シ  
テ吾人ハ時トシテ純粹ニ衡平法ノモノデアル所ノ信託ノ様ナ制度ニ付キ論  
ズル事ハ出来ルモ吾人ハ一般化スルコトハ得ズ。  
吾人ハ我々此ノ点ニ遷ツテ来ル吾人ハ此処ヲ終リテ急ギテ敘述スル十九  
世紀ノ初期ニ於テ衡平法裁判所ノ非常ニ迅速ノ発達ヲ見タ一八一三年迄デ  
ニハ衡平法裁判所ニ單ニ二人ノ裁判官ガアリシト云フ事ヲ記憶セヨ。ソレ  
ニハ大法官及M.R.ガアツタ。而シテ其身ニ後者ハ独立ノ裁判官トナツタ長  
間彼ハ單ニ大法官ノ補助トシテアラハレテ居タ一八一三年ニハ副大法官ガ  
任命サレタ。一八四一年ニハ尚ホ二人ノ副大法官一八五一年ニハ衡平法裁  
判所ニ於テ二人ノ控訴院長ガ任命サレタ。裁判所ガ一八七五年ニ廢止サレ  
タ時ニハ七人ノ判事ヲ有シテ居タ。最初ノ場合ノ事件ハ面訴又ハ三人ノ  
副大法官ノ一人ノ面訴ヲナサレタ而シテ其外ニハ大法官及ビ二人ノ裁判長



ニ依リテ組織サレテ控訴院ガアツタ。然シテフ大法官ハ任意ニ最初ノ場合  
ノ判事トシテ列座スルコトヲ得シナリ。云フ必要ナキモ各大法官、大法律  
家判事B氏C氏H氏H氏ノ如キ人々ハ本来ハ普通法ノ學者デアリ。SL氏  
W氏H氏S氏C氏ノ如キ人々ガ衡平法學家デアツタ。ソノ知ニハ次シテ又ハ  
稀ニシカ普通法裁判所ニ行カヌ所ノ大法官ノ年譜エガアルト今様ニ衡平法  
ノ裁判所ノ内部ヲ見スシテ殆ンド知ラザル所ノ衡平法ニ付キテ非常ニ大膽  
ニ認ムル所ノ他ノ大法官ノ年譜エガアツタ

向裁判所ノ手続ヲ改正スル大キナ改正法ガ生ジタ。ソノ條項ノ或ルモノ  
ハ吾人ハ今予言約ト認メテ居ル即チ此ノ條項ハ一八七五年ニ完成サレシニ  
ツノ手続ノ結合ノ為メニ道ヲ開イタ。斯クシテ例ニハ衡平法裁判所ハ或ル  
事件ニ於テ損害賠償ヲ与ヘルコトガ出来タノシテ普通法裁判所ハ或ル事件  
ニ於テ禁止命令ヲ与ヘルコトガ出来タ。以テ禁止命令ハ衡平法裁判所ノ特  
色デアツタ。一方損害賠償ノ判決ハ普通法裁判所ノ特色デアツタ。又訴訟當  
事者及ビ他ノ利害關係人ヲシテ普通法裁判所ニ証拠ヲ与ヘルコトガ出来タ

條約ハ兩者ノ間ニ接近セシメタ

並ニ一八七三年ト一八七五年ニ裁判所議成法ハ施行セラレ昔ノ裁判所ハ  
廃止セラレタ。即チ *Cheney, Queen's Bench, Common Pleas,*

*Exchequer* 検認裁判所高等裁判所及海商裁判所モ亦廃止セラレ之ニカ  
ハツテ控訴院ヲ上部ニ載ク高等法院ガ現出セラレタ。此ノ高等法院ハ五部  
ニ分レタ。即チ C.Q.C.E. 四部及検認商海商ノ第五部之ナリ。高等法院  
ノ各部ハ昔ノ独立裁判所トハ全ク異リ或ル特定ノ事務ハ各部ニ配當セラレ  
例ニバC部ニハ公益私益信託ノ実行。担当流レ担当兼除等ガ割當テラレタ  
カ之ハ便宜上ト看做シタ事務ノ分配ハ何時ニモ單ニ判事ニ依リテラレシ  
規程ニ依リ議會ノ行為ニ依リテ変更スル事ヲ得高等法院ノ各部スラ勅令ニ  
依リ議會ノ行為ニ依ラズ廢棄セラレ得ニ及Eノ奇ハ一八八〇年十二月十  
六日ノ勅令ニ依リ廢止セラレシモノナリ。各判事ハ如何ナル部ニ配屬スル  
モ自己ノ担当事件ニ於テハソノ法規ノ普通法又ハ衡平法ノ法規タルトテ固  
ハズ運用セネバナラヌ最早ヤ判事ハ訴訟人ニ此ハ信託ヲ主張スルモ裁判所

ハ信託ヲ認知セヌトカ之ノ事ハ純粋ノ普通法ノ事項デ衡平法裁判所ノ管轄  
外デアルト云フ必要ナク又最早ヤ或ル者ニトリテ法上ノ訴訟提起ノ証拠  
ヲ得ル為メニ裁判所ニ依テ訴訟スルハ専ラナリ又相手方ガ法上ノ手続ヲ  
禁止ノニ裁判所ノ禁止命令ヲ得ルコトヲ必要トセザルニ至レリ。訴訟手続  
ニ付テ大ナル變化生ジ實際吾人ハ今ヤ民事訴訟手続法典ト称スルモノヲ有  
ス。之ハ一部今裁判所構成法ニ於テ一部ハ成文法ニ依リ判事ニ賦与セラ  
レシ法規成定款ノ行使ニ依リ為サレシ裁判所規定ニ現ハレ居ル。之ノ手続  
法典ハ昔ノニツノ制度即チ法及民法ノ制度ノ長所ヲ結合シ居ル。  
主法ニ付キ一八七三年ノ裁判所構成法ガ或ル變化ヲ来シソノ第一五條ニ  
破産者財産ノ管理出訴期限法ノ適用不動産法上ノ不法行為。原告被告債  
權債務ニ関シ一定ノ規則ヲ定メ居ル。而シテ之ノ條項ハ水ニ迷ブル語ヲ以  
テ終リ居ル。

即チ之レ迄テ特ニ峯ゲザリシ凡テノ事項ニ於テ一般ニ全一事項ニ関シ  
ノ法規トシノ法規トノ間ニ争又ハ差異アリト場合ニハ民法ノ法規ガ適用サル

之ノ言葉ハ非常ニ重要ナルモノデアリ。ソノ理由ハ諸君ガ凡テノ点ニ於  
テ民法ノ法規間ニ争アリ又ハ免ニ角差異アリシ事ヲ想像スルニ至ル故ナ  
リ。之ノ條項ハ三〇年以上ニ亘リ今モ尚ホ行ハレ居ルモ。諸君ガ何が良イ  
ソレニ関スル証言書ヲ一読セラレタル場合ニ之ノ條項ガ殆ンド彼ニ立タズ  
實際効果ナカリシコトヲ了解スルナラン多クノ事件ニ於テ種々議論ノ結果  
困難セル或ル弁護士ハ最後ノ望ミトシテ之ノ條項ノ言葉ニ訴フルモノノ抗  
弁ハ實際成功セル例ナシ。余ハ之ノ事ニ関シモツト詳シク他ノ紙會ニ於テ  
語ス予定ナルモ免ニ角余ノ議ノ冒頭ニ於テスラ吾人ハ一八七五年ニ於ケル  
民法及民法間ニ存スル關係ヲ幾分知ル事ガ可成リ重要ナリ而シテ余等ガ最  
初ニ觀察セネバナラマ事ハ之ノ關係ガ争ノ關係ナラザルシト云フ点ナリ。  
民法ハ民法ヲ充足コソスレ破滅セント生ジタルモノニ非ズ民法ノ微細十  
ニ至ル迄テ從ハレネバナラナイ。凡テ之ガ從ハレシ場合ニ民法ノ要求スル  
或ル物ガ必要ナル。勿論再々争ハアツタ。例ハバCOKE裁判長ノ禁止  
命令申請者ヲ排。ヒン場合ニ如キ公然ノ争アリシモ此ノ條項ナク今デハ旧

圖ニ屬ス、而シテ一八七五年前ニ在リト云フモノハ兩制度ハ收調シテ行ハレシナリ、一見争アル如ク思ハル、アルモノガ巨細ニ調ベラレシ場合ニ決シテ争テナクナルニ三ノ例ヲ示サン、特記ノ如キ場合モソレナリ、此法ハ受益者ハ土地ノ所有者ナリト云ヒ此法受益者ガ所有者ナリト主張ス、實際ソコニハ十分争アル如ク見ユ今等ノ裁判権ヲ有スル兩裁判所中一ハAガ所有者ナリ他ノ一ハBガ果地ノ所有者ナリト云フ、之ハ内訌ヲ意味シ無政府ヲ引起スモノナリ、勿論此ノ叙述ハ極メテ粗野デアル而シテソレハ吾人ガ民法上ノ裁判ノ性質ヲ調ブル場合ニ甚ダハマシテハセ危険ナモノトナル、此法ハ受益者ハ土地所有者ナリト云ハズ受益者ハ土地ノ所有者ナリト云ヒ彼ハ受益者ノ為メニ土地ヲ所有スル義務アリト附言スル實際ソコニハ争ナシ若シ争アリトセバ裁判所構成法ノ條項ハ信託法ノ全部ヲ廢止スルナラン、此法ハAハ所有者ナリト云ヒ此法ハBガ所有者ナリト云フモ此法ガ適用ナル、ガ故ニBハ所有者ニシテAハ不動産上ニ如何ナル種類ノ裁判ヲ有セヌ勿論裁判法ハ之ノ場合干渉セズ且ツ此法ト此法同ニ何等ノ差異ヲモ見出サ

又故ニ信託法ハソノ例ニシテ置ク

他ノ場合ハ容易ニ取リ得ル即チ契約違反ノ救済トシテ此裁判所ハ損害賠償ヲ請求すルニ此裁判所ハ直接履行命令ヲ賦与ス多クノ場合原告ハ二相ノ救済手段ノ内ニ一様取ヲ有シ被告ニ對シテ此裁判所ニ損害賠償ヲ請求シ又ハ此裁判所ニ請求シテ相手方ノ契約履行ヲ強制スル事ヲ得多クノ他ノ場合ニ於テハ一様取ヲ有セズ唯一ノ救済ハ損害賠償訴訟アリ得ル場合アリカ、此場合ニハ此裁判所ハ保護セザルモ亦他ノ場合ニ於テ原告ハ損害賠償訴訟ヲ有セザルニ拘ハラズ直接履行命令ヲ得ル又此ノ場合ソコニハ争ナリ又ハ此ノ契約違反ノ損害賠償請求アルモ裁判所ハ相手方ヲ強制シテ直接履行ヲ為サシムル事ヲ得スハ此ノ契約違反ノ損害賠償請求ナキモ直接履行命令ヲ受クル事ヲ得ルノ叙述ニハ何等ノ不合理矛盾モナシ

不法行為(私犯)ノ場合ニ次ノ如ク叙述ニハ何等ノ不合理モ自家體着ニ無シ即チ天ガ聲ヲ築造シテ此ニ不法行為ヲナシタル場合ニ此ニ損害賠償ヲナス可ク強制スル事ヲ得ルモ今時ニ於テハソノ築造ヲ元状ニ復セザレバ救済

可シノ命令ヲ受ケルモノニ非ズ

吾人ハE法ヲ補充法或ガ法典ニ附加サレシ一種ノ附録又ハ法典ノ周圍ニ記載セラレシ一種ノ註ト考フ。之ノ附録註ハ常ニ特ニソノ目約ノタメニ定メラレシ裁判所ニ依リ運用セラレ今デハ法典ノ一部トシテ高等法院ニヨリテ運用セラレ居ル。

吾人ハC法トE法トハ相對立スル兩制度トハ考ヘス。E法ハ自足ノ制度ヲラズ凡テノ衆ニ於テC法ノ存在ヲ基礎トシテ居ルC法ハ自足ノ制度ナリ。信託ノ場合Aハ某地ノ所有者ナリト裁判所ノ主張セザル限りAハBノ為メ某地ノ所有者ナリト云フ事ハE法ニトリテ不必要ナリ。E法ハC法ナクシテハ空中樓閣デアリ存在不可能ナリ。

此ノ理由ニ依リE法ヲ單一ノ首尾ニ貫セル制度ト解スルヲ得ズE法ハ附録間ニ何等ノ密接ノ關係ナキ附録ノ具成ナリ。吾人ガ凡テ吾人ノC法ノ法規ヲ秩序ヨク配列セル場合ニソノ中ノ或ル章ハ他ノ章ガ全然E法上ノ註ヲ欲セザルニ不拘E法ニヨリ豐富ニ追加セラレ居ル事ヲ知ル。吾人ハ屋室ノ

ノ誤差以テ裁判所ニ法ヲ有セス。E裁判所ハ犯罪ノ方面ヲ選ケ犯罪及不法行為ノ方面ガ重複シテ以テ不法行為ノ方面ノ大部分ヲモ蓋ケ夕側ハバーハ七五年以前ニ裁判所ハ文書ニ依ル名譽毀損ノ公評禁止命令ヲ賦与セス。ソノ理由ハ普通ニ不法行為ニ屬スル文書ニ依ル名譽毀損ハス犯罪デアリ。斯カル事項ハ裁判所ハ陪審官ノ立会ナリ法律事項ノ兩問題ヲ審理セル場合ニ裁判所ニ提登サレヌ事ガ正シク考ヘラレタカラデアル。諸君ガ不法行為ニ關スル書籍ヲ一読セバ詐欺ノ場合ヲ除キテE裁判所ハ妨害等ノ行為禁止命令ヲ賦与スルアルモノ以外ハ不法行為ヲ殆ンド取り扱ハザル事ヲ知ル可シ。契約法ハE法上ノ附録ニテ豐富ニ充タサレ居ル。E裁判所ノ直接履行強制权及契約ノ取消或更テ命ズル权限ハ多數ノ契約事件ヲ裁判所ニ預ラシタ。而シテソレハ抵当刑罰時故ニ關シ特別ノ法規ヲ有シタE法ノ下ニ愈々ノ附録ヲ結合セル捺印契約(BOND)ハ裁判所上訴訟手續上ノ捺印契約ナリ凡テ之等ノ事項ハE裁判所ノ管轄ニ屬シE裁判所ノ管轄外ナリソノ捺印契約ハ今ヤ裁斷法ニ依リ廢止セラレソノ夫リ吾人ハ若草的捺印契約ヲ見出ス

一過ヤス、之等ノ規則ハE裁判所ニ依リ常ニ取扱ヘレ居リシガ之ノ捺印契  
約ノ効力ハ年々伏ハレテ行キ法律家ガ既定ノ規則ガE法ノ法規ナリ又ハ  
E法ノ規則ナリヤ尚止スル時ガ来ルナランソレガ高等法院ニヨリ運用サレ  
タ尤今確定セル規則ナルコトヲ確信スル日モ近カ、ラン

E法ノ分類ニ付テアノ亞米利加ノ大裁判官S氏ニヨリ採用サレシ計画ハ  
非常ニ一般ノ人々ニ受テ入レラレタソレハ衡平法ハ(一)排他的アリ、(二)今  
等の(三)補助的ナリ、此ノ計画ノ起原ヲ最早吾人ガ作上スルコト不可能ナ  
ルコトヲ諸君ハ知ル、E裁判所ハ或ル事項例ハバ信託ノ排他的管轄一事屬  
管轄一即チE裁判所ヲ排除スル管轄ヲ有ス、E裁判所ハ或ル事項例ハバ訴  
敷ニ付テテE裁判所ノ裁判権ト合等ノ裁判権ヲ有スル逆ニ或ルモノハ時ト  
シテハE裁判所ニ於テ得ル、今統上ノ助ケヲ得ルタメニ單ニE裁判所ニ行  
ク例ヘバE法上ノ訴権ヲ有スル原告ハ彼ノ相手方ガ依存スル書面ヲ発見ス  
ル為メニE裁判所ニ行ク、斯クシテE裁判所ハ補助的ノ裁判権ヲ行使スル  
此ノ合等ノ裁判権ハ遺産ノ計算錯誤等實上ノ詐欺、法律上ノ詐欺管財動産

ノ遺贈境界ノ紛更等ヲ取扱フ、余ハ此ノS氏ノ今統ヲ非進スルモノナラザリ  
ルモ余ノ意見トシテS氏ハ關係アル單一ノ制度ヲ取扱ハスシテE法上ノ關  
係ナキ法理關係ナキ附録、又ハ註ヲ取扱フ可キデアツタ然シテS氏ガ為  
ス様ト分類ハ最早ヤ必要ナラス、此ノ分類ハE法ヲ運用シテモル一組ノ裁  
判所ガアリE法ヲ運用シテ居ル他ノ一組ノ裁判所ノアル事ガ前提トシテ居  
ルソレハ最早ヤ英國ニ於ケル場合デナイ如何ナル裁判所及各部ガソノ法規  
ガ吾人ノ排他他ノ所有物ナリト云フ事ヲ得ザルニ至ツタ、何トナレバ高等  
法院ノ各部ハ法規ノE法スハE法ノ法規ノ何レタルヲ問ハズ裁判所ニ提出  
セラレタル事件ニ如何ナル法規ヲモ適用シ運スルヲ得ルニ至リシ故ナリ、  
余ハ諸君ガ契約法ノ多クノE法上ノ変更ヲE法ノ一部トシテバハナク我が  
現代英契約法ノ一部ニ非常ニ重要ト部分トシテ見ルコトヲ望ム、余ハ契約  
ニ關スル書籍ガ衡平法上ノ一部履行ノ法理、E法上ノ不肖勢威ノ法理E法  
上ノ契約変更ノ救済等ヲ説明セザリシテラバ非常ニ不完全ナルモノト信  
ズ余ノ講義ノ終リニ於テ余ハマウ一度E法トE法トノ間ニ存スル現代約圖

係及一八七三年ノ裁断法ニヨリ民法ニ身ハラレシ廢越上付キテ証スツモリ  
ナリ、余ノ考ニテ民法ハ吾法律制度ニ各々商セル多數ノ法律ト共ニ或  
ル新シキ価値アル制度即チ信託及ミツノ新シキ価値アル法律即チ直接履  
行命令禁止命令及裁判上ノ財産管理等ヲ附加シテ之等ノ固圍ニ多ク民法  
上ノ法規ガ具リ居ルナリ勿論余ハ殆ンド凡テ民法上ノ法規ヲ説明スル意  
思ナキモ只特ニ余ハ多少長ク信託ヲ取扱フノ後時々説明セントスル事項ニ  
付キ順序ヨリ説明スルツモリナリ。

### 第三章 信託

民法ノ功績ノ内最モ大キナ最モ重大ナモノハ信託ノ發及發達ナリ信託ハ  
契約の強固力性及不変性ニ富ム制度ナリ、ニガ恐ラク英法律家ノ最モ著シキ  
成功ヲ來セシメハ最モ文明ニ殆ンド缺ク可カラザルモノ、如ク思ハル所シ  
テ外國法ニ之ニ似タモノハ全然ナシ、例ハ巴魯乙民法ヲ採用シテモ判ル

信託ハ何知ニアルカ何知ニモナシ、之ハ英國ノ法律家ノ目ニハ大キナ証デ  
アル、外國人ハ如何ナル物デアルカヲモ知ラヌ氏ハ余ニ云フ余ハ英國ノ  
託託ヲ了解スル能ハズ余ハ何故之ガサウデアルカヲ研究セネバナラヌ、實  
際信託ハ外人ガ必要ナ法律ノ計畫ト看做ス所ノモノニ容易ニ適合セズ、之  
ノ事ハ民法上ノ權利ノ性質ヲ實際考察スル場合ニ假立ツモノナル故火シ説  
明セン、法律家ハ長年私法ノ公類ヲ試ミテ私法ニハ対立權ト対人權トガア  
ル、(物、債、取)之等ノニツノ公類ノ形ハ前者ハ所有權デ後者ハ契約ノ利  
益即チ債權デアラハレテ居ル、

信託ハ受益者ノ權利ハ何知ニアルカ容易ニ物權債權ノ何レニモ入ラヌ  
ソレハ、物債權取方ニ火シ入り居ル様ニ思ハル、外國人ハ信託ヲ吾人ノ法典  
ノ物債權ノ何知ニモ入ル、カト同フソノ最善ノ解答ハ若草的ニ窮極分拆ニ  
於テ信託ハ对人權(債權)ナリト云ヒ得ル、ソレハ対立權ニ非常ニ似テ居  
ル、特定人即受託者ニ有効ナル權利ナルガソレハ又民法ニ於テノミ存スル  
所ノ所有權ニ有効ナル權利ト殆ンド同等ノモノデアアル如ク取扱ハレテ居ル

現代ノ信託ハ昔ノUSEカヲ飛達シタモノデアル故ニ吾人ハUSE及有名  
ナUSE條令ニ付テ簡單ニ說明セシ

先ヅ語源ニ付テ云ハバ *Use* ト云フ語ハ奇妙ナ語ナリ 若シモ余ガ *Use*  
ト云ハバソレ自身起テテ誤ツテ居ル諸君ハソレハ人語ノ *Uses* デアルト  
考ヘルデアラウガ然ラズソレハ人語ノ *Opus* デアル 七ハ世紀頃ニ  
於テ野蠻ナ職匠ラテ人語ニ於テ諸君ハ *Ad opus* 即チ彼ノ為メニト云  
フ語ヲ現出スナラン ソレハ及F氏ノ法律書ニモソウ現ハレテ居ル 古  
キ人ノ人語ニハ之レハ *Ad res, vas, totum* 之ガ英國人ノ口ニ *Use*  
ト混同サレテシマツタノデアル 然レ人ノ記録ニハソレハ *Ad opus* ト  
誤ツテ居ル 若シモ余ガ *Ad opus Johannis* ニ於テ土地ヲ所有セバ之ハ勿論  
余ハ *pro* ノ為メニソレヲ所有スルト云フコトヲ意味ス若シモ執達吏ガ  
*ad opus domini Regis* = 於テ土地ヲ所有スルナラバ之ハ彼ハ王ノ為メニ  
土地ヲ占有シ彼ハ王ノ代理人トシテ行動スルコトヲ意味ス カ條ニ便ハレ  
シ此ノ言葉ハ吾人ノ法律ノ史ニ進ル確カニソレハ土地測量ニアテハシテ

居ル 或ルモノハ常ニ他人ノ *ad opus* ニ於テ或ルモノヲ為シツ、アル  
特ニ執達吏ニ常ニ *ad opus Regis, or in Re Regis* = 於テ土地ヲ占有スル  
斯クシラニニ四年ニハ次ノ條ヲ諸ガ行ハレタ 即チ *commissis terram*  
*suam emolendum Hydoni patris suo ad opus puerorum*  
*suorum* 之ハ彼ガ彼ノ土地ヲ彼ノ子孫ノ為メニ彼ノ兄 *frater* = 依託  
シタト云フ事ヲ意味ス、十三世紀ニ於テハ売主ハ買主ノ為メニ土地ヲ讓渡  
シ裁判所ニ來ル 亦ダソコニハ *uses* ノモ法ニ法モ無イ、多クノ場合ニ於  
テ *ad opus* ト云フ語ハ法律關係ヲ示ス十四世紀ニ於テハ之レハ長ク一取  
ニ代理及寄託ノ場合ヲ説明スル為メニ使用サル私ノ代理人ハ私ノ為メニ全  
ク受ケル若シモ私ガ君ノ為メニ又ハ王ノ為メニ土地ヲ占有スルナレバソレ  
ハ私ガ君ノ代理人又王ノ代理人トシテ行動シタト云フ事ヲ意味ス、又吾人  
ハ此法又ハ最近ニ於テハ民法ノ *uses* ヲ生ズル場合ニ最モ宜キ場合ニ使用  
サレシ同ジ語ヲ現出スノデアル 既ニ十三世紀ニ於テハ土地所有者ハ時ト  
シテ知行爲 (*seigniorial*) ヲ為ヤント欲スル恐ラク彼ハ此ノ爲合永代借

地人 (Tenant in fee simple) テアリ而シテ限定相続地人 (Tenant in fee) ト望ニテ居ル此ノ事ヲ為シ遂ゲントスル為メニハ彼ハ自身ニ譲渡スルコトヲ得ザル故ニ友ガ彼ニ限定相続ニ依リ再ビ譲渡スル為メニ譲渡スル、法律ハ未ダ *void* ハ條件ト看做シ居ルガ故ニ斯ル契約ヲ履行セシム彼ガ譲渡ヲ受ケル為メニ先キニ譲渡スルト云フ事ハ彼ガ譲渡ヲ受ケルト云フ條件付ニテ彼ニ譲渡スルト全クコトデアル、余ノ知ル範圍内ニ於テハ土地ガ一人ニ依リテ他人ノ為メニ又ハ一園ノ人ニ依リテ他ノ一園ノ為メニ永久ニ所有サレル所ノ最初ノ場合ハ次ノ行為ニ依リテ生ズ、即チ十三世紀ノ中葉ニ於テふらんしすニ僧園ノ行為ガ之ナリ、僧園ハ規定ハ最も完全ナル貧窮ヲ標語トシテ居ル、即チ彼等ハ決シテ富ヲ有シテハナラヌ彼等ハ *monks* (一身僧) トハ異ナリ居ル僧ノ一身僧ハ何物ヲモ有スルコト能ハザルモ一園ノ一身僧、寺院ハ土地ヲ所有スルコトモ亦未履、富ニテ居ルモノモアル、之ニ及シ僧園ノ寺院ハ伯人約ニモ又國体的ニモ財産ヲ有シテハナラヌ此ノ広達ナル理想ニモ不有彼等ハ眠ル可キ宿ヲ火クトモ有セザル可カラズ

ト云フ事ハ明白ナリ、彼等ハ多クノ町ニ布教ニヤツテ未タ、土地ヲ僧園ノ為メニ所ニ譲渡スルト云フ工夫ガ計画サレタ、おつくすニセーどノ

*Ricardus Lo Mulinis* ノ手記ニハ (*contulit decem et domum communitatis villas Brannas ad rivos pratium.*)

土地及建物ヲ僧園ノ為メニおつくすニセーど村ニ移転スルト云フ事ガ現ハレテ居ル、常ニ早ク英國ニ於ケル各町ハ斯クシテ天山ノ土地ヲ所有シタ、此ノ聖堂ニ付キテノふらんしすニ僧園ト法王 *John* ニ十ニ古トノ間ノ大論争ノ勃発ニヨリテ此ノ事件ニ注意ガ向ケラレタ、

然シテラ十四世紀ニ於テハ此ノ古キ言葉ハ實際的ニ土地所有ト關係アル新シキ關係ヲ表示スル、為メニ成用サレタ、吾人ハ土地所有者ガ彼ノ土地ヲ *ad opus suum* (彼自身ノためニ) 彼ノ友ニ譲渡スル場合ヲ現ル之ハ何故ナルカ確カニ主ナル理由ハ彼ガ有効ニ遺言ヲ為ス為メナリ、彼ハ生在中ハ利益及所得ヲ得死後ハ彼ノ友ガ土地ヲ彼ノ指示ニ從ヒ譲渡スル為メナリ



何故土地ノ遺言スル能ガ願セラレタカソレハ靈魂ノ慰安ノ為メニ捧ケル資  
金ヲ増加スルタメニ及ビ兄弟姉妹ニ生計費ヲ供給スル為メニ望マレタノデ  
アル、法律ハ死ニ類セル土地所有権ニ聽テアツク即チ土地所有権ハ至ハ補  
助金、後見料結婚許可料土地収収ノ取限ヲ有シ居リシ故ナリ、之等ハ脱法  
スルコトガ出来シカソレハ復數ノ讓受人ニヨリテ脱法サレタ、合有借地ハ  
彼ノ助ケニナツク、ソコニハ相続モ補助モ後見モ結婚モ無シ、合有借地ハ  
ニ依リテ即讓渡及再讓渡ニ依リテ領主ヲ排斥シ補助金等ノ概合ヲ無効ナラ  
シメタ、十四世紀間土地所有者ハ此ノ名案ニヨリテ多數為スコトガ出来タ  
土地所有者ハ自今自身ノ為メニ一友又ハ等口一園ノ友ニ土地ヲ讓渡スル彼  
等ノ間ニハ土地所有者ガ土地ノ所得及共有ヲ有スル而シテ讓受人ハ法律上  
ノ所有者デアルト云フ契約アリ多クノ目的物ガ斯ル計画ニ依リテ得ラレタ  
ハ或ル物ハ此クシテ後見及結婚ノ封建的負担ヲ廻遷スルコトヲ得タ、勿  
論一人ノ讓受人ヲ有シ彼ノ死後未成年ノ相続人が居リシ場合ニハ此ノ計画  
ハ破ラレ、如何トナラハ此ノ未成年ノ相続人ノ後見ヲ要ホスルニ至ル故ナ

リ、然シテ一人ノ友デナク一園ノ友ヲ合有借地人トシテ讓渡スル計画ガ  
為サレ而シテ之等ノ讓渡人が死セセル場合ニモ新ナル讓渡人がカハリテ  
ソノ地位ヲ奪ル故ニソノ結果領主ノ後見ノ概合ハ無効ニ成ス、領主ハ讓受  
人ノカラクリヲ知ラズ讓受人ノ借地人デアル、而シテ領主ハ法律ニ  
依リテ彼等ノモノナル土地ヲ借地人が他人ニ共有ヲ許シテ居ルコトハ知ラ  
ズ、(一)又国事罪及重罪ニ對スル土地没収ノ法律ハ脱法セラレタ、王及領主  
ガ法律上何等ノ権利ヲ有セザル讓渡人ノ背後ノ事情ヲ知ラザルガ故ニ七八  
人ノ讓受人ノ各人が国事罪ヲ為ス事ハ期待サレタ故ニ土地ヲ没収スルコト  
ハ能ハズ、(二)死守條令ハ脱法セラレタ若シモ私ガ私ノ土地ノ売上金ヲ寺院  
ノ人々ニ共有ス可ク許スナラバ之ハ條令違反ナラズ、何トナラバ寺院ハ土  
地ノ所有者ニ非スシテ私ガ所有者ナル故ナリ、(三)之ノ法方ニ依リテ債取者  
ヲ訴審スルコトモ出来タ、余ガ債務ヲ負フテ居ル余ノ債取者が判決ヲ得執  
行カアル正本ヲ得私ノ土地ヲ占有ニ入りシ場合ニ彼等ハ余ガ占有シテ居ル  
土地ヲ有セナイト云フ事ヲ知ル諸君ハ月ガ諸君ニ債務ヲ負担セシカフトテ

スリズノ土地ヲ占有スル事能ハキル故ナリ (田遂ニ此ノ工夫ニ依リテ不動  
 産ノ遺言ニ非常ニヨク似ク或ルモノヲ為ス取能ヲ自今自身ニ与ヘルコトガ  
 出来タ、私ノ讓受人ガ遺言如ク実行スル場合ナリ、余ハ遺言ニヨリテ土  
 地ヲ遺贈スルツモリナク余ハ單ニ彼等ニ屬シ余ニ屬セヌ土地ヲ或ル方法ニ  
 於テ取取フ可ク一定人ニ要スルニ過ギズ、諸君ハ此ノ工夫ノ成功ガ法  
 裁判所ガ讓受人ニ土地ヲ獲得セル徳義上ノ契約ヲ履行ス可ク強制セシ場合  
 ニ防ゲラレルデアラウコトヲ知ルデアラウ、若シモ讓受人ガ結局ニ土地  
 ハ讓受人ノ土地ナリト云ヘバ讓受人ハ單ナル讓受人ノ代理人タルニ過ギズ  
 故ニ凡テノ工夫ハ無効ニナリソノ必然的結果トシテ後見結婚許可料、土地  
 収得者ガ生ズルナラン、此法ハ之ヲ強制セズ此法ハ之等ノ場合ニ彼立ツ手  
 続ノ形式ヲ有セス、彼等ガ條件付讓受人ガ法律ヲ之等ノ信託ニ適用スルコト  
 ハナカリヤ、何トナシバ信託余リニ漠然ツリシ故ナリ、讓受人ハ或ル一定  
 行為ヲ正當ニ為スト云フ條件付ニ讓渡スルコトヲ得ズ、積極的消極的ノ行  
 為ガ讓受人ニ要求セラル、然シテ免角何故ニ裁判所ハ此ノ契約ヲ

contractトシテ取取フ事カ出来ナカッタ也 Aニ依リテスリ公ニ為サ  
 レタ讓渡ヲ考察スレバ所謂スリ公ハAノ有メニ土地ヲ所有スルト云フコト  
 ヲ合意シ彼ニ(A)土地ヲ共有サセ而シテ彼ノ命ズル依ニ土地ヲ讓渡スルコト  
 ヲ合意シテ居ル、吾人ハ *trust* 即チ現代ノ語ニ於テ一取ニ *Trust* ハ吾人  
 ガ契約 (*agreement*) ト呼バザルヲ得ナイ所、或ル物ニソノ起源ヲ有ス  
 ト為テ、信託讓受人即チ現代ノ受託者ハ一定ノ方法ニ依リ土地又ハ動産ヲ  
 知理スルト云フ事ヲ合意ス、ソレ故ニ十四世紀ニ於テ裁判法ガ現代の  
 形式ヲ採ルナラバ、裁判所ハ之ハ契約ナリ (*agreement*) ト云フ事ヲ余  
 儀ナクサル、トモフ事ヲ余ハ為テ、故ニソレハ法律上強制シ得ル契約ナリ  
 然シテソレガ契約セラレタル場合ニハ損害賠償訴訟ガ契約者ニ対シテ存ス  
 之ハ充分讓受人ガ捺印ニヨリテ契約セル場合ニナサレ得ル、捺印証書ノ無  
 キ場合ニハ契約ノ欠缺ヨリ生ズル困難ハ一寸シテ工夫ニ依リテ避ケラル然  
 シテ吾人ハ十四世紀ニ於テ此法ガ不單純契約ヲ履行シ初メナカッタ事  
 ソレガ不合法占有訴訟 (*the action of Trespass*) カラ *the action*

of accomplice / 訴取ヲ引出サナカツタコトヲ記憶セザル可カラズ 若  
シモAガ土地ヲスリムニ譲渡シ而シテ彼等ガ彼ノ為メニ土地ヲ所有シ彼ノ  
指示ニ従フ事ヲ約束スルナラバ之ハホテ捺印証書ニヨリ為サレザル限リハ  
履行ヲ強制シ得サル約束ナリ 十五世紀ニハ此種裁判所ハ不法占有者  
The action of accomplice (ヲ獲得シ而シテ吾人ニトツテ何故裁判所  
ガ當時契約ヲ(此ノ契約ガ信託ノ起源ヲナシタノデアルガ)履行シ初メ十  
カツタカト云フコトハ了解ニハ少シ困難ナリ 此ノ答ヘハ之ノ時迄デ彼等  
ハ唯一度ノ獄等ノ機会ヲ失ツタト云フ事ナリ 大法官ハ既ニ昔ノ裁判所ガ  
使用スル事ガ出来タヨリ以上能率アリ而シテヨリ以上權力ニ富ム手続ニヨ  
リテ信託ヲ履行シテ居タ 且カ既説セシ如ク信託ニヨリテ得ント成ムル必  
ノ目的ハ若シモ此種裁判所ガ法律上ノ効果ヲ信託ニ附シ始メタラバ殆ンド  
違セラル事ガ出来ナカツタ 此等ノ目的ノアル物ハ債権者ガ彼等ノ債権者  
ヲ訴取スルハツノモノデハナカリシモ目的ハ不信用ナモノデアツタ ガソ  
ノ目的ノ他ノ物ハ時代ノ保護ヲ受ケテ有効ニソノ目的ヲ達シタ 封建制度

ハ信用ヲ失ハレソレハ意ノ低ニ訴取スル制度トナツタ 人々ガ補助金、後  
見料結婚許可料ノ負担カラ及犯罪ニ対スル土地没収ノ恐ロシク嚴酷ナル法  
律ヨリ免カレント努カシ 彼等ガ土地ノ遺言ヲ為サント望ミシコトハ非常  
ニ当然デ而シテ不名譽ナコトデハナカツタ 此ノ法律家ガ嫌悪ノ情ヲ以テ  
信託ヲ眺メタト云フコトヲ説述シテハナラズ アノ有名ナ大法律家レ氏自  
身モガ彼ノ為メニ信託ニ依リ土地ヲ所有シタ  
次第ニ大法官ハ之等ノ契約ヲ履行シ初メタ何故彼レハ左様ス可キデアツ  
タカ何故ニ彼ハ左様ス可キデアツタカ再度録述サン 余ハ再ビ之ノ事ニ戻  
ル 即チ信託ハ契約ニ依リ住セシモノナリ 受託者ノ約束ニ対シ履行アル  
約因ガ無カリシ場合ニハ約束者即チ受託者ニ何等ノ利益無クトモ免ニ角相一  
手方即チ信託者ニ損失ヲ与ヘルヘ何トナレバ信託者ハ法律上ノ権利財産占  
有不能ニナルガ故ニト云フ事ガ公平ニ云ハレテ居ル 人々ハ彼等ノ約束  
ヲ履行セネバナラズ 而シテ彼等ハ左様ナス可ク強制サル ソレハ原則デ  
アリ確ニソレハ非常ニ簡單ナル原則ナリ 諸君ハ大法官ガ物故デナク債権

ヲ履行シ初メス彼ガ約束ニヨリテ成立セシ契約上ノ権利ヲ履行シ始メタト  
云フナラン、實際ソレハ左様デアル、受益者ノ権利ハ債權ニ依リテ初マル  
次第ニ受益者ノ権利ハイサ、カ物取ノ様ニ思ハル、ニ至レリ、然シケラソ  
レハ決シテ物取ニハナリキラス今日デスラモ、

此ノ事ヲ余ハ特来ノ講義ニ於テ長ク説明スルツモリナリ現在ハ十五世紀  
ノ間ニハ土地信託ハ非常ニ普及シ既ニ十四世紀ニ於テハソノ志用ハ多数  
ノ人々ノ中ニ盛メラレ而シテ吾人ハ有名ナ丁、氏ガ讓受人ニ依リテ彼ノ為  
メニ所有セラル、土地ヲ遺言ニ依リテ承シテ事ヲ知ルナリ、此ノ漸削度  
ハ迅速ニ波及シ而シテ一四〇〇年頃ニハ大法官ハ受益者ト讓受人間ニ干渉  
シタ彼ガ干渉シタト云フ事ハ少シ妙ナリ、領主ノ利益ハ分割セラレ何ト  
ナレバ彼等ハ領主デアルト同時ニ借地人ナル故コ、ニ更ニ殫究スル必事ア  
リ、恐ラク吾人ハ疑獄事件ヲ想像スルコトヲ得而シテ大法官ニ依ル及指十  
キ干渉ハ國民道徳ノ及映ニヨリテ促サレタ、S.H.五古ハ彼ノ為メニ土地ヲ  
所有シタ

讓渡人(受益者)ト本来ノ讓渡人トノ間ノ事件ハ讓受人ガ信託ヲ無視セ  
バ不正デアルガ故ニ明白ナリソレハ契約違反ト看做ル而シテ之ハ恐ラク契  
約違反ハ此上ノ事項ナルガ故ニ為サレナカツタ免角契約ノ誤ハ使用サレ  
ナカツタソコニハ讓受人ヨリ得ラレシ形式約未ハナカツタ

(一) 信託ヲ契約ト取扱フニ及対スル強キ一理由ハ讓渡人即チ受益者ハ  
債權ヲ有シ之ハ讓渡セラレヌト云フニアリ、然シケラ吾土地所有者ハ土地  
所有權ヲ約束ノ利益ト交換スル意思ハナカリキソコニハ未ダ義務ト云フ語  
ナク凡テガ信託ノ保護ノ下ニ約サレタ、(二) 次ニ吾人ハ最初ニ此ノ如キコト  
ヲ知ル故テハ信託者ニ与ヘラレズ寄属者ニ与ヘラレタト云フコトナリ、最モ  
最初ノ場合ニ於テハ信託者ト受益者トハ同一ノ人アリ、尚ホ彼ハ信託設定  
者トシテバナク寄属者トシテ故済取ヲ有シ居タリキ、之ガ信託ト契約トヲ  
区別ス、之ノ原則ハ吾人法ヲ通シテ現今ニ至ル迄テ通用サル即チ寄属者受  
益者ハ故済取ヲ有ス、受益者ト云フ語ハ曖昧ナク夫ヲ有スル非常ニ不幸ナ  
言葉ナリ、(三) 不動産物取ニ付キテハ民法ハ民法ニ從フト云フ原則アリ、

吾人ハコノ事ニ付キテ後ニ現代信託法ト関連シテ孰トセザル可カラズ (四)  
茲シテラ大法官ニ新シキ物ヲ設定スル事ハ出来ズ、ソレハ設定スルト云  
フ事ハ已テ法ヲ補充スルト云フ事ニハ非ズシテ或ナルト云フ事ニナル故ナリ  
若シモ大法官ガ之ノ計画ヲナスナレバ遺言能力ニ類スル能力ヲ得ル凡テノ  
計画ハ破壊セラル、ナラン、受益者ハ眞ノ所有者ニシテソノ結果遺言ヲ為  
スヲ得ズ而シテ彼ノ死後補助金後見料等ガ発生スルト且ツテハ云ハレタ  
何故ニ法裁判所ガ受益者ニ対シテ何事モナサナカッタニ付キテハソコニ理由  
アリ、若シモ裁判所ガ受益者ニ何カ權利ヲ賦与スルナレバ此ノ計画ハ凡テ  
破壊セラル、ナラン (四) 大法官ガ存スル即チ何人ニ対シテ信託ハ對抗シ得ル  
カ、買主ニ付キテ凡テカ良心ニ基クト云フコノ事ガ信託飛達ノ道程ナリ、  
若シモ諸君ガ知ツテ買フナラバ良心ニ於テソレハ受益者ノ土地ナリ、現代  
的意味ニ於テ事實上又ハ推定酌認知ニ基ク、吾人ハ今後事實上ノ規則ニ能  
ル、吾人ハS氏ノ法理学ニ於ケル詭ノ詭ニ於テ彼ハ受益者ヲ眞ノ所有者  
ト取扱ヒ而シテ受託者ノ財産ノ權利ヲ限制ト取扱フ詭トシ教授ガHノ法律

評論ニ於テ受託者及受益者ノ權利ノ取扱トヲ比較スル事ヲ得  
我者ハ此ノ新シイ信託ノ制度ハ乃チマテヨリ引用セシモノナリト考ヘ又  
或者ハ英法ノ信託ハ沿革的ニ乃チマテ法ノ *fides commissarius* 即チ信  
任關係ト若華約ニ関連シ居ルト云フモノモアル、余ハ此ノ關係ヲ信ゼズ、  
之ノ余ノ不信用ニ対スル理由ハ直チニソレハ主要ノ点ニ持テ来ス故ニ直チ  
ニ說明スル要初カラ大法官ハ受益者ノ權利ヲ不動産上ノ權利ニ非席ニ類似  
セルモノ、標ニ取扱ツテ居ル、受益者ハ信託ニ依リ不動産上ノ權利ヲ有ス  
ルコトアルモ之ハ一取ニ相統人ニ取属スル古態相統取アリ、直系血族相統  
人ニ取属スル限定相続取生存中有スル權利アリ又ハ信託ニ依リ一定ノ年  
間共有スル不動産上ノ利益 (*chattel interest*) 得ル凡テ之等ノ  
事故ニ付キテハ原則ハ已テ法ハ已テ法ニ從フト云フ事ナリソレハ例外ナキ規則  
ナラズ如何トナラバ諸君ノ知レル如ク不動産ノ法律上ノ借地ニ付キ為サル  
、コトノ出来ズ信託ノ制限ヲナスト云フ事ハアリ得ル故ナリ、然シテラ、  
尚ホモ之ノ規則ハ非常ニ一取ニ觀察サレテ居ル信託ハ一種ノ刑事上ノ実体

トシテ看做カレ、ソノ実体ニ於テ土地ニ於テ設定サレ得ル権利ト同一ノ取  
刑即チ有、取属富貴等ノ权利ガアリ得ル

信託ハ非常ニ普及スル縁ニナリシ故ニ法官ハ帰属信託 (Realdom trust)  
ノ法理ヲサ、施行スルコトガ出来タ、Aガ死ニ譲渡シテ而シテ譲渡ニ因  
カリシ場合ニハAハ死ニ土地ヲ共有セシムルニ意思ナシト法律上指定サル  
即チ死ハAノ為メニ所有スルト推定サル若シモAガ真ニ彼ノ親族デナキ者  
ニ土地ノ贈与ヲサントスル場合ニハ彼ハ死及彼ノ相続人ニ約サレタ譲渡  
ハ死及死ノ相続人ノ為メニ為サレタト云フ事ヲ宣言セネバナラズ、此ノ事  
ハ特ニスガAノ親族デナキ場合ニ必要ナル約因該ハ系ケ約因ナリソレハ  
C法ノ裁判所ニ於テハ單純契約ト因連シテE裁判所ニ於テハ信託ト因連シ  
テ同時代ニ赤テ発達サレタ而シテE法裁判所ハ価値アル約因ナラザルモ血  
族關係ハ信託發生ノヨキ約因ト判次シテ居ル此ノ原則ハ尚ホモ現在ニ於テ  
行ハレテ居ル、Aハ信託ニ付キテ何事モ云ハズ及ソノ相続人ニ譲渡スル  
故ニ此ノ場合ニ価値アル約因ナキ場合而シテスガAノ親族ナラザル場合ニ

ハ現今ニ於テ信託ハAヨリ死ニ何モノモガ移ラズ、ト云フ結果ヲ得ズルガ  
若シモAト死ノ間ニ血族關係アル場合ニハ然ラズ、何トナラバ血族關係ハ  
価値アル約因ナラザルモソレハ口頭ノ約束ヲ支持スルモノデナキモ之ハ信  
託ヲ発生スルニ充分ナルヨキ約因ナリ

余ハ敢テ取属信託ニ付中更ニ云フ私ハ取属信託ニ関スル原則ガ信託ノ為  
メノ譲渡ガ極メテ行ハレ而シテ一般原則トシテ或ル人ガ無償ニ受領ノ土地  
ヲ引寄セシ場合ニハ彼ハ死自今自身ニ信託スルト云フ事ヲ意味シ譲渡人ニ  
贈与ニヨリテ利益ヲ享フルト云フ事ヲ意味セザルト云フ事ガ推定セラル、  
故ニ余ハ取属信託ヲコ、ニ等グルニ至リシナリ  
再ニ立法府ハ信託ヲ注意スル縁ニナツタ、R. II 即位一五年ノ法令ハ寺院  
及他ノ法人ノ信託ニヨル死守條令ノ撤消ヲ禁止セリ、十五世紀ノ初期ヨリ  
他ノ法令ガ他ノ場合ニ於テ土地ヲ占有セル受益者ハ或ル目的ノ為メニソノ  
土地ノC法上ノ所有者ト取扱ハル事ヲ規定セリ、信託ニヨル譲渡ノ実行ガ  
迅速ニ國民ノ下層ニ行キ直レリ、讓渡者カ占有スル場合ガ極メテ多クナツ

又 而シテ R. 五世ノ法令ハ信託制度ノ適用及ソノ下ニ生ズル困難ヲ示セリ  
此ノ法令ハ次ノ事ヲ規定セリ 即チ秘密ノ讓渡ノ為メニ非常ノ困難及疑ヒ  
ナクシテハハハ不動産ヲ買フ事モ能ハズ又女ハ合有地又ハ不動産上ニ於  
ケル孀婦產ヲ有セズ又人ノ遺言ハ履行セラレズ尚又質償借又ハ年金等ハ完  
全ニ保証セラレザリシ為メニ此ノ秘密讓渡ニヨリテハ非常ナ不安困難費用  
及悲シム可キ無念ガ王ノ臣民ノ内ニ曰ハニ増大スルニ至レリ 此ノ法令ハ  
吾人ニ依リテ為サレタ不動産上ノ権利ハ彼ニノミ有効ナルノミナラズ彼ノ  
為メ彼ノ相続人ノ為メニ占有シ又ハ主張スル凡テノ人ニ有効ナルコトヲ現  
定シ居レリ ソレハ不法行為ニ依リテ單ニ不動産上ノ権利ヲ獲得スル讓受  
人ヲ妨ゲル此ノ故ニ讓受人及受益者ハ不動産上ノ権利ヲ享フル事ヲ得、結  
果ニ於テ之ハ已法上ノ不動産法上ノ権利ヲ讓渡スル一種ノ成法上ノ能力ヲ  
賦与セリ 次ニコ、ニ有名ナ信託條令ヲ說明スル、信託條令ハ非常ニ意思  
ノ強固ナル王ニヨリ非常ニ不眠ノ議會ニ押シ付ケラレシモノナリ 此ノ條  
令ハ非常不評判ナモノニシテ而シ *Pilgrimage of Grace* トシテ知ら

レタカトクノ教徒ノ及乱ノ一原因トナツタ ソレハ人カラ遺言能力ヲ奪  
ヒアノ靈魂ノ慰安ヲホハル能力ガソレハ彼等ガ長年共有セルモノナルガソノ  
能力ヲ奪ツタデアラウト云フ事ガ直チニ判然トス 王ハ信託ノ廢止ニヨリ  
利益ヲ得損失ヲ受ケザル一人者ナリ 此ノ條令ノ有名ナ條項ヲ次ニ示ス  
或ル人ガ他人ノ為メニ土地又ハ不動産ヲ占有セル場合ニハ凡テ斯ル場合  
ニ於テ古來相統ニヨリ又ハ限定相統ニヨリ又ハ生存中又ハ一定期間等ニ依  
ル信託ヲ有スルモノハソノモノガ信託ニ於テ有セルト同ジ土地又ハ不動産物  
取不動産上ノ権利ノ法律上ノ占有者ト看做ル 余ハ現代ノ信託法ヲ說明ス  
ル為メニ必要ナル範圍ニ於テ信託ニ付キ說明スル  
(一) 此ノ條令ハ人ガ此レ迄テ占有シ居リシ所ノ使用权 (*usage*) ヲ遺贈ス  
ル能力ヲ奪取セリ 今ヤ已法上ノ権利ニシテ終身所有權 (*free*  
*hold*) ノ已法上ノ権利ハ特別ノ地方慣習アルヲ除キテハ遺贈スル事不可  
能トナレリ 今ハ已ノ即位ニ三年ノ一五四〇年ノ法令ハ終身所有權ノ土地  
ヲ遺贈スル或ル能力ヲ奪ヘタ 然シテラソレハ賦役ニヨリテ所有サレシ土

地ト *recharge* 一土地ヨリ生ズル財物後ニハ地代ヲ給附ス一ニ依リ所有セラレタ土地トノ間ニ區別ヲ為シタ

此ノ條令ハ終身所有權ノ讓渡ニ関スルニツノ新シキ方法ヲ示シタ。即チ有契約及讓渡ニ依ル売買契約若シモ此法上ノ不動産上ノ権利ヲ有スルAガBノ為メニ有スルコトヲ契約セバ條令以前ハ之ハ不動産上ノ使用權ヲBニ与ヘタ事ニナル條令後ハソレハBニ此法上ノ不動産權ヲ移シタ。若シ価値アル約因ヲ受ケシAガBニ土地ヲ売ラント合意セル場合ニハ此ノ單ニ合意ガ條令以前ハBニ不動産上ノ使用ヲ与ヘタ。契約者ハ相手方ノ為メニ有スル様ニナツタ條令後ハ斯カル契約及売買ハBニ此法上ノ不動産權ヲ讓渡スル結果ヲ生ジタ也。今年ニ於テ(一五三五)他ノ條令ハ相続財産ノ此ノ契約及売買ハ捺印證書ニヨリ登録セラレネバナラヌト云フ事ヲ規定セリ。然シテ此ノ登録法ハ一定期間ノ契約及売買ニ及バズ。而シテ質貸借及権利放棄ニヨル讓渡ノ方法ハ説明セラレ人々ハ之有リ引渡シ及登録証書ナクシテ終身所有權ヲ讓渡スル事ニ成功セリ

條令ハ人々ガ以テ爲ス事ガ出来ナカツタ此法上ノ不動産權ノ或ル如ク今ヲ爲ス事ノ出来ル結果ヲ生ジタ此ノ結果ハ厚シキ語ヲ述ベラレテ居ル *sub* ハ普通法上ノ不動産權ヨリ一層彈力ヲ帯ビ而シテ今ヤ *sub* ハソノ彈力性ヲ土地ニ帯ビサセタ。人ガ普通法上該定シ得ル唯一ノ特殊ノ不動産ノ或る留權ナリキ (*Remainder*) モ *sub* = 付キテハ大法官ハ昔ノ規則 (*Common Law*) ノアルモノヲ無視スル。而シテ今ヤ普通法上ノ不動産權ハ *sub* = 伴ツタ *sub* ノ実行知分及此法上不動産ノ実行知分ハ可能ニナリ此法上ノ不動産權ハ幾生及転換 *sub* = ヨリテ幾生又ハ転換スル事ガ出来タ。

然シテ凡テ之ハ信託ニ関スル講義ノ領分ヨリモ不動産法ノ講義ノ領分ニ屬スルモノナルモ信託ヲ説明スルニハ未ダ。 = 付キテ説明スルト云フコトガ今日ニ於テスラモ必要ナル。信託ハ如何ニシテ該定セルカト云フ事ニ對シテハ吾人ハ。 = 知ラズシテハソレニ答フルコトヲ得ズ。或ル書面ガ吾人ノ耳ニ提出セラレシ場合ニソノ書面ガ信託ヲ該定シ又ハセザル



カト云フ事ハ屢々、<sup>10</sup> 條令ノ辭意ヲ意味スル問題ナリ簡單ナル場合ヲ示セ  
バ遺言者ガ余ハ凡テノ余ノ終身所有権、公簿所有権及債権動産及Bノ為  
メ信託ニヨリAニ遺贈スルト云フ場合ニハソコニハ信託ガアルカ否ハ公  
簿所有権及不動産ノ終身所有権ト區別セザル可カラザルカ此ノ見地ニ基  
キ余ハ條令ニ付キ火シ述ベシ

(一) 條令ハ動産ニ付キテハ何モ言ツテ居ラヌ而シテ動産ニ火シテモ關係  
アル所ノ<sup>11</sup> 法又ハ<sup>12</sup> 法ニ影響セズ

(二) 條令ハ公簿所有権ガ支配セラル、<sup>13</sup> 法<sup>14</sup> 法及債權ニ影響セズ

(三) 條令ハ債権ニ適用ナント云ハレテ居ル之ハ信託ナルモノソレハ說明  
ヲ要スル條令ガ適用セラル、為メニハAガ<sup>15</sup> 為メニ占有スルト云フコト  
ガ必要ナル之ノ占有ハ終身所有権ヲ推定スルソレ故ニAガ<sup>16</sup> 借地権ヲ  
有スル場合ニハ條令ハソノ事件ニ付キテハ何モ云ハヌ、之ニ及シAガ<sup>17</sup> 為  
メニ占有シ居ル物合ニ條令ハ<sup>18</sup> 一定期間使用ヲ与ヘラレタニシテモ適  
用アリ、若シモ諸君ガ此ノ條令ヲ讀マバ此ノ條令ガ<sup>19</sup> 適用カニ此ノ場合ニ適用

サレ居ル事ヲ知ルナラン、若シモAガ<sup>20</sup> 為メニ占有シ居ル場合ニハ公簿  
相續限定相續生存期間中又ハ一定年限ノ間斯カル使用ヲ有スル<sup>21</sup> 彼ガ使  
用シ居ル同ジ不動産ノ法律上ノ占有者ト看做サル、故ニ余ガ<sup>22</sup> 公簿相續借地  
人ナル場合ニ十年ノ期間<sup>23</sup> 為メニ信託ニヨリA及B<sup>24</sup> 彼ノ相續人ニ土地ヲ  
讓渡スル此ノ場合ニ<sup>25</sup> 与ヘラレシ一定年限ノ期間ハ普通法上ノ一定年限  
ノ期間ナリ

又ガ此ノ一定年限ノ期間有シ居ル場合ニ<sup>26</sup> 為メニBニ讓渡スル之ノ場  
合條令ノ適用ナシ、何トナレバ<sup>27</sup> 又ハ占有セズ又Bモ占有セズデアラウ、而  
シテ條令ハ<sup>28</sup> 為メニ占有スルモノヲ<sup>29</sup> 現存ス事ハ不可能ナル故ナリ、故ニ  
條令ガ一定年限ノ期間ニ<sup>30</sup> 宜ツテソノ期間ガ<sup>31</sup> 設定サレシ場合ニハ<sup>32</sup> 讓渡ニ  
適用ナシト云フ事ハ事實ナリ、然シテ<sup>33</sup> 此ノ條令ハ一定年限ノ期間ノ<sup>34</sup> 設定  
ニ適用アリ、不動産ノ<sup>35</sup> 設定ニ於テ<sup>36</sup> 該定者ガ<sup>37</sup> 為メニヨリテ終身所有権ノ<sup>38</sup> 与  
ラズ一定年限ノ期間<sup>39</sup> 設定スルト云フ事ハ普通ナリ、之等ノ年限ノ<sup>40</sup> 期間ハ受  
託者ガ<sup>41</sup> 次男以下ノ者ノ<sup>42</sup> 為メニ<sup>43</sup> 今<sup>44</sup> 其ヲ<sup>45</sup> 答<sup>46</sup> グル<sup>47</sup> 為メニ<sup>48</sup> 与ヘラレ、而シテ<sup>49</sup> 此ノ年



フ信託ノ語ニ生ズルノデアル。此法裁判所ハ之等ノ場合ヲ最初ノ語ガ捺印  
証書ニヨル場合ハ重要ナルモ後ノ語ハ遺言ニ依ル場合ニ行ハル。ト云ヒテ  
適用シテ居ル。例ヘバ捺印証書ニ於テスニ地代又ハ所得ヲキフル又ハソレ  
ヲ受クル事ヲ許スト云フ信託スルト云フ語ハC法上ノ不動産ヲ手ヘル余ハ此レ等ノ場  
一方遺言ニ於テ全權ノ語ハスニC法上ノ不動産ヲ手ヘル余ハ此レ等ノ場  
合ヲ更ニ説明スルソモリナキモ諸君ガ語ニ於テスハ効果ニ於テモスノ為メ  
ニ單純ニ信託デアル知ノ信託ヲ有スル場合ニミ此ノ條令ガ適用アリト云  
フ事ヲ注意セザル可カラズ此ノ問題ノ書面ガAニ選取取ヲ手ヘルラバ  
例ヘバ彼ガスル間ニ彼ガ適當ト考ヘテ居ルガ如キ割合ニ於テソノ収入ヲ  
今クル場合ニハ勿論ソノ事ガ彼ガC法上ノ不動産ヲ有シテ居リ而シテ彼  
等(スル)ハC法上ノ権利ヲ有セザル事ヲ主張スル理由トナル

*In Baker v. White* 二於テA及Bニソノ相続人遺言執行者遺言  
財人譲受人ニ丁ノ生存中地代ヲ受クル可ク而シテソレヲ生存中丁ニ支払ヒ  
又ハ丁ニソレヲ受クル可ク許ス信託ニ依リ終身及公簿所有權ノ遺贈ガアツ

タ。而シテソレハ丁ノ死後ハソノ直系血族ノ相続人ノ為メニ遺贈セラレ、  
コトニナツテ居タ。遺言者ハA、B及丁ヲ遺言執行者ト任命シ而シテ遺言ノ  
下ニ支払ハル、金銭ニ対スル受託者遺言執行者ノ受領書ハ十分ナル免責ト  
ナルデアラウト宣言ヲシテ居ル。エレハ *Ans. George Jessel* ニヨリテ  
次ノ如ク判決セラレタ。即チ丁ハ終身所有權不動産上ニC法上ノ限定相続  
不動産及公簿所有權不動産上ニ於テハ生存中丁有ス可キC法上ノ不  
動産権ヲ有スト

*In Van Gutter v. Jernell* 一於テ一人ノ子供ニ付中偶然生セシ  
事件ニ適用セラル。範圍ハ次ノ如シ。遺言者ノ娘(B)ノ為メニ地代及所得  
ヲ受ケ而シテソノ地代等ヲ當時未成年者デアルBノ生活費及教育費ニ充當  
シ而シテ成年後ハBノ生存中ハソノ地代及所得ヲBニ受クル事ヲ許ス信託  
ニヨリ又及メニ遺贈ガアツタ。而シテBノ死後ハB及メハBノ直系血族ノ  
相続人ノ為メニ信託ニヨリ占有セネバナラズ。此ノ場合ニ斯カル土地ハ法  
律上成年ニ達セシ相続人ニ譲渡セラレ、コトデアル。此ノ事件ニ *The rules*

*in Shelley's Case* カ適用セラル、ヤ否ヤハ遺言書ニ此ノ規則ヲ適用フ  
スルト云フ事ハ遺言者ノ意見ヲ損フモノデアルト云フ事ヲ示シテ居ル多ク  
ノ語ガアル様ニ主ナ固難デアリ

此ノ遺言ハ受託者ニ借地人ノ成年ニ達セシ間及ソノ死後ハ生存中ニ法上  
ノ不動産ヲ有フルモノト説マレ得ル然シテラ判次ハ法上ノ不動産ハ  
完全ニ受託者ニ取属シ而シテ *the rule in Shelley's case* 適用セラ  
レ而シテBハ限定相続不動産ヲ所有スル *Lord Gesschel* ハ云フ若  
シニ特別ノ古襲相続不動産ノ為メニ土地ガ遺贈セラレシ場合ニソノ受遺者  
ニ依リテ得ラレタ不動産トソノ受遺者ノ相続人ニ限ラレル不動産ト  
ハ同性質ノモノニ非ズ場合ニハ即チ一ハ法上ノ権利ニシテ一ハ法上ノ  
権利ナル場合ニハ *the rule in Shelley's case* ハ適用ナシト云フ事ハヨク確  
定シテ居ル、若シモ此ノ権利ガ其ニ法上又ハ其ニ法上ノモノナリシ場  
合ニハ *the rule Shelley's case* ハ適用スル現在ノ場合ニ於テ法上  
ノ不動産ハ最初ノ場合即チ受託者ニ取属スルモ受託者ガ彼女ノ唯一ノ使

用及利益ノ為メニ地代及所得ヲ彼ノ子供ニ改クル可ク許スコトノ遺言証書  
ノ言葉ハ若シモソノ言葉ノミナリセバ疑ヒモナク遺言者ノ子供ニ法上ノ  
不動産ハ充分移ル、然シテラ遺言信託ガ彼ノ息子ノ二十一才ニ達スルニ  
先中五才ニ法上ノ不動産ハ受託者ニ取属シ而シテソレガ彼ノ子供ノ死後  
受託者ニ再び取属スルト云フ事ヲ要求スルト云フ事ハ等シク却カデアリ  
現在ノ場合ニ於テ見出サル、如キ知分行為ガアル場合ニハ私ハ私ノ考ヘル  
項、見界ハ法上ノ不動産ハ受託者ニ完全ニ残存シ受託者ノ不動産ハ  
単ニ法上ノ権利デアルト云フ事ナリ

*Lord Baverly* ハ云フ遺言者ノ子供ノ成年ニ達スル間遺言ノ目的ガ受  
託者ハ法上ノ不動産ヲ有スコトヲ要求スルコトハ認メラレテキル、又  
子供ノ死後受託者ハ子供ノ相続人が二十一才ニ達セル物合ニ彼等ニ遺言ス  
ル事ガ出来ル為メニ令時ニ地代一應既得ヲ授ケシムル為メニ及カ、ル相続  
人ノ住居及教育費ヲ借給スルタメニ法上ノ不動産ヲ有セネバナラヌ  
ト云フ事モ認メラレ居ル然シテラ成年ニ達シタル後子供ニ贈与スルト云フ

是ハ彼等ニ彼等カ生存中ニ法上ニ法上ノ不動産物ヲ与ヘル言豫ナリト云フ  
事ヲ云ハレテ居ル。此ノ場合ニジテ事件ニ適用セラル、詔ハ若シモ余ガ一  
人ノ子候ヲ有シ而シテ此ノ一人子ニ彼女ノ生存中流産地代ソノ他ヲ受ケシ  
ムルコトヲ許ストトラスト云フ語ニナル。疑ヒモナク許スト云フ語ハ此  
上ノ不動産権ヲ移スニ允テアル而シテ此ノ言豫ガ受託者ガ履行スル義  
務ヲ有セザルモ受託者ニ残存スル此上ノ不動産権ト一致シテ居ルト云フ  
コトハ絶対的ノ規定ナラズ、受託者ニヨリテ作約義務ノ履行ヲ生ズル場合  
ガアル而シテ受託者ヲシテ彼等ノ義務ヲ履行スルコトガ出来ル様ニ彼等ニ  
繰返還贈セラレザリシ場合ニハ此上ノ不動産権ハ完全ニ受託者ニ既属ス  
ルト推定セラル、デアラウト云フ事ハ便宜ニ規定ナリ。

(五) *trust* 條令ノ主ナル結果ハ各譲渡ニミツノ語ヲ附加シタト云フ事ガ  
一版ニ云ハル 即チ *trust, confidence, trust* デアル。

### 第四章 現代信託

吾人ハ今ヤ現代ノ信託法ノ大體ヲ考察スル吾人ハソレヲ云イ意味ニ於ケ  
ル法律(此法)ト呼ブガス專向的ニソレハ凡テ此法ヲアルト云フ事而シテ  
吾人ガ常ニ此法ノ法規ヲ此法ノ法規ヨリ正別セネバナラヌト云フ事ヲ記憶  
セヨ。疑ヒモナク吾人ハ信託ノ定義ヨリ吾人ノ議論ヲ始メタイ。ガ余ガ何  
知ニ正シキ定義ヲ発見ス可キカラ知ラズ有名ナ學者レ氏ハ此ノ事柄ヲ次ノ  
如ク論ジテ居ル

信託法理ハ等シク不動産及動産ニ適用セラレテ支配スル原則ハ他ヲ支  
配ス可ク運用セラル、デアラウガ故ニ吾人ハ一版ニ信託ノ性質ヲレレ氏ノ  
ノ定義ヲ採用スルコトニ依リ述ベルツモリナリ。即チ *trust* ニ適  
用セラレシ言葉ニ於ケル信託ハ土地カラ生ズル権利デナクシテ土地ノ不動  
産権及受益者ガ此法裁判所ニ於ケル *subpoena* ノ手続ニヨル外放棄ヲ得  
ラレザリシ土地ニ触ル、人ニ密接ニ附加セラレタル無体物トシテ或ル人ニ

課セラレシ信任デアル<sup>云ハレ</sup>得ル

之ガ定義ト云ハレ得ルナラバ之ノ定義ハ<sup>云ハレ</sup>カラ生ズル、信任ガ信任  
デアルト云フ事ハ非常ニ必要デハナイ何トナレバ若シモ吾人ガ信任ハ何デ  
アルカト云フ事ヲ尋ネル場合ニ吾人ハ恐ラクソレガ信任デアルト認サル、  
若シモ私ガ土地ヲ余ノ為メ受託者トシテ君ニ又ハ余ノ存中及子供ノ為メノ  
受託者トシテ君ニ土地ヲ譲渡スル場合ニハ吾法ハ信任ト呼ブノミナラス眞  
ニソコニハ余ニ依ツテ君ニ置カレタ信任ガアル余ハ君ニ信任スル又ハ余ハ  
君ニ信任ヲ置ク斯カル場合ニ於テ受託者ハ受託者ニ何等ノ信任ヲモ置カヌ  
ト云フ事ガアリ得ル余ガ君ニ余ノ息子ノ為メニ信任ニヨリ一定額ノ金銭ヲ  
私ヒシ場合ニ又ハ私ヒ殘シタル場合ニ君ガソレヲ彼ノ為メニ信任ニヨリソ  
レヲ所有スル事ヲ合意スル此ノ場合信任ノ設定者即チ信任者タル余ハ君ヲ  
受託者トシテ信任ヲ置ク、然シテ余ハ受託者トラス余ノ息子ガ受託者デ  
アル而シテ此ノ信任ハ完全ニ息子ハンノ信任ニ付キ何モ知ラナクトモ成立  
ス、恐ラク彼ハ懐カレタル赤子デアアルカモ知レズ恐ラク彼ハ外国ニ居ルカ

モ知レナイ、吾人ハ恐ラク住シテ居ナイカモ知レナイ、何トナレバ君ハ能  
鬼又ハ不特定人ニ対シ信任ヲスルコトガ出来得ル故ナリ、然シテ此ノ場  
合受託者ガ受託者ヲ信任スルト云フ事ハ云ハレズ、然シテ吾人ハ普通ノ  
語ニ於テハ人ハ受託者ニ信任スルコトハ出来サルモ吾人ハ信任ヲ有スル事  
ヲ得、此ノ時ニ於テ余ハ口頭ニヨリテ君ニ余ハ余身身余ノ長女ノ為メニ此  
ノ時計ノ受託者トナル、ト云フ事ヲ宣言スル、此ノ場合既ニ法律助意味ニ  
完全ニ信任ガアル、余ノ娘ガ発狂セシヤ聞知セルヤ否ヤ彼女ハ余ニ対シテ  
信任ノ履行ヲ請ホスル事ヲ得、余ハ受託者デ彼女ハ余ノ受託者ナルモ一定  
期間中ソノ期間ハ七年ナルカモ知レザルモ彼女ハ余ヲ信任シテ居ラヌト云  
フ事ハ明白ナリ彼女ハ彼女ノ為メニ信任ニヨリ土地ヲ所有スル私ノ宣言ノ  
意思ニ付キテ何モ知ラヌ、  
余ハ次ノ種ナ方法ニ於テ信任ヲ定義スル人ガ他人ノ為メ又ハ或ル特定目  
的ノ達成ノ為メニ行使スル義務アル私ノ権利ヲ有セル場合ニソノモノハン  
ノ他人ニ又ハンノ目的ノ為メ信任ニヨリ私利ヲ有スト云ハル而シテソノモ

ノハ受託者ト呼バル此レハ非序ニ須然タル定義ナルモ私ハ之ヲ最上ノモノト  
ト思フ

余ハ信託ノ場合ヲ他ノ場合ト區別スルコトニ依リテ信託ヲ註釈セン

(一) 受託者ハ或ル一定ノ方法ニ於テ彼ノ権利ヲ行使スル義務アリ、他人  
ノ為メニ又ハ一定ノ目的ノ達成ノ為メニソノ権利ヲ行使スル義務アリ、或  
ル者ハ或ル特別ノ方法ニ於テソノモノ、権利ヲ行使セザル義務アル事ニヨ  
リ受託者トナラズ土地又ハ不動産ノ各所有者ニ應々ナル方法ニ於テ土地又  
ハ動産ヲ使用セザル義務存ス、私法ハ大ニ所有権ノ一取柄ノ権利ヲ制限  
スル法規ヨリナル、余ハ余ノ隣地ノ土地ヲ動カス為メニ余ノ土地ニ掘ヲ穿  
ツ事ハ出来ナイ若シモ私ガ之ヲナスナラバ余ハ不法行為ヲナシ余ノ隣人ニ  
訴権発任ノ原因ヲ与フ然シテラ勿論余ハ彼ノ為メノ余ノ土地ノ受託者ニ非  
ズ

(二) 債務者ハソノ債権者ノ為メノ受託者ニハ非ズ余ガ非序ニ借金ヲシテ  
居ル余ハ確カニ余ノ動産ヲ讓渡シ而シテ債権者ニ支払ハル、流ノ支払金ヲ

得サセサル稱ニ債権者ヲ妨グス事ヲ為ス可カラス若シモ余ガソレヲ為スナ  
レハ破産管轄ヲ有スル裁判所ハ余ヲ罰ス、財産ノ讓渡ハ債権者訴實行爲ト  
シテ取消サル此ノ場合余ハ余ノ債権者ノ為メノ受託者ニハ非ズ、債権者ハ  
特定物又ハ特定ノ権利ヲ支払スル事ハ不可而シテ君ハソレヲ行使スル義務  
アリスハソレヲ余ノ為メニ禁止スル又ハソレヲ余ニ引渡ス義務アリト云フ  
ニ過ギズ、債権者ハ債権者ニ非ザルニ限り單ニ对人限(債権)ヲ有スル  
ニ過ギズ、若シモ彼等ガ債権者ナル場合ニハ彼等ハ対立権(物権)ヲ有  
ス然シテラ兩者ニ屬セマ場合ニハ信託アリ

(三) 吾人ハ信託ト寄託トヲ區別セザル可カラズ、勿論或ル方法ニヨリ寄  
託ト正法ニ依リテ履行セラル、信託ヨリ容易ニ正列スル事ヲ得、受寄者ニ  
對スル寄託者ノ権利ハ正法上ノ権利ナル、之レニ又シ受託者ニ對スル受  
益者ノ権利ハ正法上ノ権利ニ非ズ、吾人ハ何故或ル権利ガ正法上ニ  
於テ履行セラレ物ノ権利ガ正法上ニ在セラレテ居ルト云フ事ヲ說明スル事  
ヲ得ズ

此ノ事ニ付キテ今少シ詳シク説明セシ。吾人ガ寄託スル即チAハBニ本  
ヲ貸与スルAハBニ一定期間ノ間貸料ヲ夫松ヒテ返還ヲ約シテ借リル即チ  
Aハ沢山ノ本ヲBニ安全ニ寄託スル此レ等ノ場合ニ於テBハAカラ権利ヲ  
得而シテBハAニ対シ義務ヲ負フテ居ル彼ハ多少ノ義務ニソノ本ヲ安全ニ  
保層シAニ返還スル義務アリ。此ノ場合吾人ハBガAノ為メニBガ有シタ  
ル如ノ権利ヲ行使スル義務アリトハ考ヘヌ。Bガ本ニ於テ有スル如キ権利  
ハ彼ガ彼ノ為メニ有スル而シテソノ彼ガ共有ノ権利ハ彼ニトリテ最善ノモ  
ノトシテ共有スル事ガ出来ル之ニ及シSハ結婚信託ヲナシ而シテ彼ガ設定  
スル財産ハ田書籍ヲ包含シテ居ル彼ハ之等書籍ノ凡テノ所有権ヲSノ生存  
中ソノ本ヲ共有スル事ヲ許シソレカラ彼ノ第一ノ子候ニソノ本ヲ共有スル  
事ヲ許ス所ノ丁及丁ニ取属スル。辱、価値アル財産ガ此クシテ設定セラレ  
ソノ結果設定行為ノ継続中或ル處宅ニ住居スモノハ絵画、本、皿等ノ使用  
ヲ有スルコトニ於テ丁及丁ハ此ノ財産ノ完全ナル所有者デアルS及他ノ受  
益者ハソノ財産ニ於テ何等ノ権利ヲ有セヌガ丁及丁ハ設定行為ノ語ニ何等

ヲシテS及他ノ受益者ニ財産ノ共有ヲ許ス事ヲ強制スル事ニ從ヒ彼ノ權  
利ヲ行使スル義務アリ次ニ寄託ト信託トノ間ノ區別ヲ生スルニ標準ヲ說明  
スル一ハ売買法ニヨリテ他ハ刑法ニヨリテ說明セラル。

(A) 寄託者ニ商民ノ受寄者

Bハ動産ヲメニ売却スソノ売買ハ寄託ノ言ニヨリテモ認メラレズ。而シ  
テ同屋營業法範圍ニ於テナカレズ又公然ノ市場ニ於テモ約サレナカツタ  
ルハ善意ヲ買ヒ而シAノ権利ヲ知ラザルモ彼ハ動産ニ付キテノ権利ヲ取得ス  
ル事ハ能ハズ。Aハメカラ商品ヲ取返ス事ヲ得。若シモメガ彼ノ使用ノ為  
メニソノ商品ヲ横領セバソノモハAニ対シ不法行為ヲナセシ事ニナルソ  
レハ何故ナルカソレハメカラ商品ノ所有者ニ非ザルモノカラ商品ヲ買ヒシ  
メナリ。他ノ場合ヲトルナバ丁ハSノ結果設定行為ノ受託者トシテ商品  
ヲ所有スル信託ニ違及シテ彼ハメニソレヲ売ルメハ善意ニシテ買ヒ而シテ  
信託ニツキマハ全然無知。メハ商品ノ権利ヲ取得スル丁ハ商品ノ所有者デ  
アル彼ハメニソノ権利ヲ移シタ故ニメハ動産ノ所有者トナリ而シテSハメ



ニ対シ何等ノ権利ヲ有セ又何トナレバ信託ノ権利ハ善意ヲ対面ヲ支払ヒ  
而シテソノ信託ノ権利ノ存在ヲ知ラズニテ上ノ所有権ヲ取得セルモノニ對  
シ強制スル事ハ未ダト云フ原則法規アレバナリ。次ニ余ハコ、ニ受寄者  
ト受託者同ノ區別ヲ説明セン

(B) 刑法ニ於テ兇ル吾人ノ中世紀ノ法律ニヨリテサハ受寄者ハ竊盜犯  
トナリ得ル若シモ竊盜行為非ニ彼ガ寄託ヲ決定スル或ル行為ヲ為シタ場合  
ニハ例ヘバ運送人ガ包ヲ破リ而シテ商品ヲ奪ヒシ場合ニハ之ハ竊盜犯ナリ  
而シテ今日法令ニヨリテ受寄者ハ冒險行為ナクトモ彼ガ寄託ヲ決定スル  
行為ヲナサザリシト云ヘドモ竊盜犯ナリ得ル。然シテテ商品ヲ奪用セシ受  
託者ニ付キテハ之ニ上ノ刑法ハ何モ云ヒ居ラズ如何ニシテ之ニ法裁判所ハ受  
託者ヲ罰セシカ彼ハ商品ノ所有者デアルト云ハレ而シテ或ル人ハ自分ガ所  
有シ占有スル知ノモノヲ盜ム事ヲ得スト云ハレ居ル一八五七年迄テハ彼ガ  
信託ニ於テ所有シテ居ル所ノ商品ヲ奪用スルト云フ事ハ受託者ニトリテ犯  
罪トナレリ。而シテ今日テサハ、彼ガ犯ス所ノ犯罪ハ竊盜犯デモナク又重

罪デモアリ。余ハB氏ノ寄託ノ定義アルニモ不拘商品ノ受寄者ト商品ノ真  
ノ受託者トノ間ニズナリ而シテ永ク或ラズ別ガアルト云フ事ヲ諸君ニ示ス  
為メニ單ニ之ニ説明シタノデアル。私ハ考ヘル之ノ差異ハ受寄者ハ物ニ於  
テ特別ノ所有権ヲ有スト云ヘドモ物ノ完全ナル所有権ヲ有セ又一概ノ所有  
権ハ受託者ニアル之ニ受託者ハ所有者デアルモノ、完全ナル所有権ヲアル  
一方受益者ハ物ニ於テ何等ノ権利ヲ有セズ受益者ガ物ニ於テ何等ノ権利ヲ  
有セズト云フ諸君ヲ驚ス事ナランガ余ハ今後之ノ事ニ付キ立証スル信  
託ノ特長ハ受託者ガ権利ヲ有シソノ権利ヲ彼ガ受託者ノ為メ或ハ或ル特定  
目的ノ達成ノ為メニ行使スル義務アルト云フ點ニアルト考ヘル之ノ場合ハ  
寄託又ハ信託デアルカ否カト云フ事ガ困難ナル場合ニ考ヘラレル例ヘバ私  
オ息ニ外國ヘ行ク而シテ再度取ルカ否カヲ知ラズ而シテ余ハ一友ニピあの  
ヲ送り而シテ彼ニピあのヲ保存セヨ而シテ余ガ再度取ラザル時ハソレヲ余  
ノ娘ニ与ヘヨト云フ。之ハ寄託トモ信託トモ同様ニ解セラルル恐ラク疑念ニ  
無關係トモノ即私ノ娘ノ母ガ寄託又ハ信託ノ何レニ屬スルカヲ決定スル

(四) 例ハバ遺言執行者若ハ遺產管財人ハ受遺者又ハ親族ノ為メノ受託者ニ非サルモ彼ハ容易ニ彼等ノ為メニ受託者トナル事モ出来又或ル事ヘラレタル場合ニハ或ル者ガ單ニ遺言執行者又ハ遺產管財人ナリシカスハ受託者ナリシカラ決定スルト云フ事ハ困難ナリ之ノ問題ハ非常ニ實際的ニ重要ナル問題ナル例トナレバ出訴期限法ハ遺言執行者ニ対スル受遺者ニ依ル訴權ト受託者ニ対スル受益者ニヨル訴權トノ間ニ區別ヲ為セシ故ナリコ、ニニツノ場合ヲ説明セン

ニ於テ諸君ハ控訴院ガ或ル訴權ハ例ヘバ遺言執行者ニ対スル遺贈者ノ訴權ナリキト云フ事ヲ云ヒ居ルヲ知ルヲラン又

ニ於テ諸君ハR裁判長ガ原告ハ受遺者テアリ而シテ被告ハ遺言執行者ナルモ或ル訴權ハ例ヘバ遺言執行者ニ対スル受遺者ニヨリテ提起セラレタ遺贈訴權テハナクシテ受託者ニヨリテ受託者ニ対シテ為サレタル訴權テアル此ノ困難ハ一過ノ不火ニヨツテノミ説明シ得ル、中世紀ニ於テ遺贈ノ為メニ遺言執行者ヲ訴ヘントスル受遺者ノ固有裁判所ハC法裁判所テアル時ノ立ツニツレテE法裁判所ハ之ノ管轄權ヲ保

敵裁判所ヨリ奪ヒサレリ而シテラ遺贈ニ基ク受遺者ノ訴權ハ信託ノ法理ヨリ甚ク古キモノニシテソノ法理ノ内ニ来ルモノニ非ズ、余ハ此ノ問題ニ付テ長ク語ヲ遣メル事ハ出来サルモ余ハ余ノ信託ノ定義ガイサ、カズキヤ感アリ、遺言執行者ノ場合ニ於テ債務ガ支払ハレタル場合ニ吾人ハ一人ノ完全ナル商品ノ所有者ニ象ヒモナク遺言執行者ハ完全ナル商品ノ所有者ナリ一ヲ見出ス而シテ尚ホモ彼ガ特別ノ方法ニ於テ彼ノ私利ヲ行使スル義務アリ例ヘバMニ遺言者ノ時計Nニハ遺言者ノ本ヲ引渡スト云フ義務アルガ免ニ角クモ彼HN及Mノ受託者ナラス、余ハコレガ左様ナル事ヲ認メザル可カラズ而シテ現今單ニ余ノ定義ニ例ヘバ單ニ行使スル遺言執行者又ハ遺產管財人ハ受託者テナイト云フ事及テ不助ノ説明ヲ云フ付キテ事ヘル事ハ可ナルト云フ事ヲ附言セネバナラヌ、然シテラ裁判上ノ受託者法ノ第三條ハ裁判所ヲシテ或ル場合ニ於テ信託及ノ責任ヲ善意ノ受託者ニ免責スル事ヲ得、而シテ第一條ニ号ハ遺言者又ハ無遺言死亡者タルトテ向ハズ死者ノ財産ノ管理ハ此ノ法令ノ意味ニ於ケル信託テアリ遺言執行者及遺產管

財人ハ受託者ト云ツテ居ル、又土地讓渡法ハ相続法ヲ変更セル時ニ不動産ハ遺言信託人ニ移ルト規定シ居ル、ソノ第一條ハ此ノ法令ニ依リテ与ヘラレトシ遺言信託ニ関スル期限及権利ノモトニ死者ノ遺言信託人ハ法律ニ依ル受益者ノ受託者トシテ不動産ヲ所有スル事ヲ要スト規定セリ、現代法令ノ傾向ハ遺言執行者及遺言信託人ヲ受託者ト合一ノモノト見ルト云フ事アリ時ニ出訴期限法ニ付キテハ不動産ニ関スル遺言執行者及遺言信託人ハ受託者トナイト云フ事ヲ知ル可キナリ、

次ニツノ遺言ノ間ノ差異ヲ述ブ

余ガ余ノ時計ヲAニ余ノ不動産ノ残部ヲBニ与ヘ而シテ余ハCヲ遺言執行者ト任命ス而シテ余ハAノ為メニ私ノ時計ニ付キ信託シ及Bノ為メニソノ残部ニ付キ信託スル事ニヨリCニ凡テノ余ノ不動産ヲ与ヘル而シテCヲ遺言執行者ト任命ス

(五) 余ハ受託者ハ他人ノ為メニ行使スル権利アルモノト説明シテ、多クノ場合ニ於テ之等ノ権利ハ土地ニ於ケルニ法上ノ不動産又ハ不動産ノC法

上ノ所有権ヲアル而シテ實際ニ其ノ場合ハ非常ニ普通ナル故ニ時トシテ人々ハ丁度受託者ハC法上ノ不動産ヲ有スルト云フ事ガ必然的ナルカノ標ニ認スガ實際ニ之ハ然ラズ第一ニ信託ノ目的物ハ與ノ所有権ヲラズソレハ土地ニ於ケルニ法上ノ不動産又ハ不動産ノC法上ノ所有権ニモ非ズシテソレハ單ナル人取即チ契約ノ利益又ハ債権債務ノ権利ナリ、AハBニ捺印証書ニ基キ又ハ單純契約ニ基キ一定額ノ金銀ヲ借リ、Bハ結婚ニ際シ之ノ債権ヲ自身及彼ノ妻子ノ為メ信託ニヨリ丁及丁ニ譲渡スルソレハ普通ニ行ハル、場合ニシテ此知ニ於ケル受託者ノ権利ハ單ニ对人取即チ一定金額ノ支取ヲ受クル債権者ノ権利ナリ或ル場合ニ於テ土地ガ有り得レトモ受託者ハソノ土地ノ上ニC法上ノ不動産ヲ有スルヲ得ズ一組ノ受託者ハ注存中ハAノ為メニ殘余ヲ世襲相続ニ依リBニ信託ニヨリ土地ヲ所有シ居ル日ハ結婚セントシテ居ル彼ハ彼ノ権利ヲ他ノ一組ノ受託者ニ彼自身及妻子ノ為メニ信託ニヨリ譲渡スル事ガアリ得ルモ然シテラ彼ガ譲渡スル事ノ権利ハ單ニC法上ノ権利ニシテソレ故ニ第一ニ受託者ハ單ニC法上ノ権利

ヲ有スルニ過ギズ。諸君ハ一組ノ受託者ノ為ニ他ノ一組ノ居ル事ヲ知ルト  
云フ事ガ辱、起ルソコニハ一ノ該定行為ガアリ又ソコニ再該定行為ガアル  
抵当ノ下ニアル不動産カ該定セラレタル場合ニ該定若ハ單ニ民法上ノ権利  
ヲ有スルニ過ギスシテ彼ガ該定不動産上ノ抵当権ヲ摘除スルニ非ラザレバ彼  
ノ受託者ニ民法上ノ権利以外ノ何モノヲモ讓渡スル事ヲ得ズ

(六) 受託者ハ或ル彼人ノ為メニ又ハ或ル目的達成ノ為メニ彼ノ権利ヲ行  
使スル義務アリト余ハ旦ツテ云フタ余ハ此ノ  
ノ言葉ガ必要ナリト考フ  
吾人ハ勿論單ニ受託者ヲシテ他人ノ為メニ所有セシムル單純信託ヲ有スル  
例ハバ丁ハ右襲相続ニヨリAノ為メニ信託ニヨリ右襲相続ニヨル土地ヲ所  
有スルストハ一定金額ノ國債ニ権利アリ而シテ此ノ金額ノ凡テノ民法上ノ  
権利ハAニ取属スルコトニ他人ノ為メノ單純信託アリ而シテ非常ニ屢、  
吾人ハ受託者ハ他人ノ為メニ單純ニ所有スルト云フ事ハ云ヒ得ズ例ハ巴普  
通ノ場合ヲトレバ丁及丁ハ土地ヲ売リ而シテソノ売上金ヲABC間ニ分配  
スル信託ニヨリ土地ヲ所有スルコトニ若ンモABC及Cガ凡テ成年ニ達シタ

ル場合ニハ彼等ハ受託者ニ吾人ハ不動産ヲ売ラス寧ろ不動産ヲ吾人ノ為メ  
ニ保存スルト云フアラハ受託者ハソレニ従ハサル可カラズ  
彼等ノ全ラガ斯カル指圖ヲ受託者ニ与フルコトヲ合意セザル場合ニハ受託  
者ノ義務ハ土地ヲ売却スルコトニアル、其レガ彼ガ達成ス可ク義務アル目  
的ナリ

勿論吾人ハ受託者ノ義務ガ或特定人ノ為ニ所有スルコトヨリムシロ或目  
的ヲ達成スル場合ノ上入ツタ信託ヲ尚一層有ス

例ハバSガ國債ヲT及Tニ彼ガ作りシ規則ノ計画ニヨル信託法ニ關スル  
論文ニ對シ債名ヲ与フルコトニ收入ヲ使用ス可シトノ信託ニヨリ讓渡スル  
此場合此ハ此資金ヲ余ノ為ニ所有シテ居ル、衡平法上ソレハ余ニ屬スト云  
得ル者ハナイ、斯カル目的信託、公益信託ニ付テ簡單ニ說明ス、此信託ハ  
特定受益者ナキヲ以テ辱、特徴付ケラレテ居ル、夫シテ受益者ナシト云得  
ル、此信託ハ私人ノ名ニ於テ聲明スルコトヲ得ズ、此信託ハ檢事総長ノ名  
ニヨリ提起セラレシ訴訟ニヨリ聲明シ得ル、何ニカ受益者アリトスルナラ

ハ其レハ一取公衆ナリ

此信託ノ尸火ハ違ク *Beligaboth* 即位四十二年法ニ違ル、公益トイフ語ニハ非常ニ云イ意味ガ異ハラレマヨル。

公益ト云フ語ニ異ハラレシ範圍ハ公衆又ハ公衆ノ或階級ニ直接ニ利益トナルト考ヘラレシ目的ニ殆ンド等シ、然ラバ公益目的トハ何ゾ、

*in re sequestrata* 或教区ノ院代カ保主義及信仰心ノ向上及心的改良ノ為維持セラル、村ノ俱樂部及読書室トシア使用セラル、建物ヲ遺贈スル此レハ公益目的ナリト判決セラレタ

*in re mortuaga* 収支取競争奨励ノ為受フルカツプ株式ノハ友出スマシトノ指圖ヲ有スル一定金額ノ贈與ハ公益目的ニ非スト判セリ

次ニ余ハ信託ハ如何ニシテ設定セラル、ヤラ問題セネバナラズ、而シテ此場合余ハ信託ガ設定セラレル方法ニ關係アル信託ノ分類ヲナス、信託ハ

(一) 当事者ノ行為ニヨリ (二) 法律ノ効力ニヨリ設定セラル  
又ニ分類セバ次ノ如クナル。

明示  
黙示  
既屬  
推定

信託  
当事者行為ニヨル  
法律ノ行為ニヨル

或者カ信託ニヨリ拘束セラル、ハ言葉ニヨル彼ニヨリ為サレシ宣言又ハ彼ノ行為ニ於テ拘束セラル、意思アリトノ効果ヲ附セラレル推定是レナリ、信託ノ設定ハ完全ニ一方約行為ニシテ一人以上ヲ必要トセマ、余ハ自身印度ニアル余ノ息子ノ為此時計ノ受託者タルコトヲ宣言スル、其後此時計ヲ売却セシ場合ニハ例、余ノ息子ハ余ガ彼ノ為ニ意味セル利益

ヲ通知セザトモ余ハ信託達及ヲ為シ而シテ余ノ息子ハ余ニ対シ衡平法上ノ  
新取ヲ有スル、

信託ノ最モ普通ノ起源ハ二人間ノ法律行為ナリ、Sハ土地、動産又ハ固  
債又ハ債取ヲ信託ニヨリTニ譲渡シ而シテTハ該信託実行ヲ承諾スル、此  
場合Sト間ニ合意アリ、此合意ハ有款ナルモノナルガ故ニ衡平法上強制シ  
得ルモノナルガ故ニSト間ニ契約アリト云フコトヲ得、然ラバ信託ト契約  
トノ區別如何、吾人ハ多數ノ信託ヲ包含スルコトナシニハ契約ヲ定義スル  
コトヲ得ズ

信託法ヲ契約法ヨリ別體ノモノト取扱フ理由ハ單ニ「史取敘述ニヨリテ  
ノミ決ヘ得ル、

信託ハ衡平法裁判所ノ衡平法上ノ裁判権ニ服ス此故ニ普通法裁判所ハ信  
託ヲ強制スルコトヲ得ズ

普通ノ場合ニ於テ信託ハ合意ト呼バザルヲ得ヌトコトモノニ生スル、  
Sハ信託ニヨリ土地及動産又ハ債取ヲTニ譲渡スル、Tハ明示若バ彼ノ行

動ニヨリテ拘束セラル、コトヲ約ス人ハ信託ヲ受クル迄ハ受託者ニ非ス  
汝ハ余ニ通知セズメニ信託スルニヨリ余ニ及余及余ノ相続人ノ為ニ土地  
ヲ譲渡スル、余ガ此譲渡ヲ知レル場合ニハ汝ガ余ニ授セント努メシ故取ヲ  
余ハ非認スルコトヲ得、

余ガ信託ヲ通知セル場合ニ何モ為サザル場合ニ於テハ余ハ受託者ニ非ザ  
ルガ故ニ権利ヲ否認スルコトヲ得

遺贈ニ対スル人ノ承諾ハ行動、登録又ハ捺印證書ニヨリ非認セザル限り推  
定セラル、

第五章 信託ノ設定

信託ハ詐欺条例ノ或ル条項及ヒ遺言法ニ從ヒ口頭ニヨリ捺印証書、文書、如何ナル種類ノ形式等ナク設定スルコトヲ得、而シテ或ル確定セル解散法規ニ從ヒ何等特別ノ言葉ヲ必要トセス、吾人ハ此ノ前提ノ下ニ話ヲ進メル。

昔ハ捺印証書、文書ハ信託設定ニ必要ヲナイ、余カ汝ニ譲渡シ口頭ニヨリ汝ハXノ為ニ所有スヘシト宣告スル、汝ハXノ為ニ所有スルコトヲ要ス、信託ニ付イテハ詐欺条例ニヨリ変更セラレシ場合ヲ除イテハ尚法律アリ、遺言法第七條ニ土地、不動産物権ノ信託ノ宣言設定ノ法律ニヨリカ、ル信託ヲ宣言スル能カアル当事者ニヨリ署名セラレシ書面ニヨリ又ハ遺言ニヨリ示サレ証サレサル可クラ不然ラサレハ全ク効カヲ生セス、第八條但シ譲渡カ行爲又ハ法律ノ効力ニヨリ譲渡セラレ又ハ消滅セラレ又ハ法律ノ推定又ハ解散ニヨリ信託ノ發生スル場合ノ土地又ハ不動産物権ニナサレシ場合ニハ各所カ、ル場合ニ差テ斯ル信託ハ若シ此条項カナサレサ

リシ場合ニハ此レ違何ニカ反村ニ包含セラレシト同様ノ効力及ヒ結果ヲ生  
スル。

余ハ第ハ条ヲ対照スル爲メニ次ノ条項ヲ説ム、第凡条信託ノ全テノ讓渡ハ  
同様ニ讓渡者ニヨリ署名セラレシ文書又ハ遺言書又ハ遺贈ニヨリナサレサ  
ルヘカラス然ラサレハ全然効力ヲ生セス。

(一) 第七条ハ信託ノ宣言及ヒ設定ノ現定第凡条ハ信託讓渡ノ現定ナリ。

(二) 第七条ハ單ニ土地及ヒ不動産物権ノ信託ニ関シ第凡条ハ不動産物権、  
動産債權等ノ信託ノ全程ノ讓渡ニ関ス。

第七条ニ於ケル土地及ヒ不動産物権ト云フ言葉ハ公益所有權及ヒ不動産  
ヲ包含スルカ不動産物權ニ關スル債權ヲ包含セス。

(三) 第凡条ハ信託讓渡ハ讓渡者ニヨリ署名セラレタル文書ニヨルコトヲ要  
求トス。

第七条ハ單ニ法律上斯ケル信託ヲ宣言スル能力アル當事者ニヨリ署セラレ  
タル文書ニヨリ示サレ証セラレル事ヲ要求トス。

諸君カ詐欺條例ノ二ツノ有否ヲ条項第凡条及ヒ第十七條(成契約法上重要

ナル条項)ヲ研究セル場合ニ同様ノ英ニ注意カ向ケラレルナラン。第七条  
ヲ充スニハ書面ヲ信託設定ノ向ニテモ作成セラレルコトヲ要ス。

受託者ニヨル明示ノ宣言又ハ其結果ノ覺書又ハ彼ノ手記ニヨル手紙又ハ彼  
ニヨリ実行セラレタ捺印証書ニ於ケル暗誦ニヨル如ク受託者ニヨル其旨ノ  
認諾ニヨリ信託ヲ示サレ証サレタル場合ニハ条項ハ充タサレル。如何ニ違  
クトモ信託ノ証明ハ其設定ノ時ニ適及シテ効力ヲ生スル。

若シモ余カ汝ニ土地ヲ讓渡シ相互間ニ汝ハ又ノ爲メ信託ニヨリ土地ヲ所有  
スヘシノ合意アルモ讓渡証書又ハソノ他ノ書面ニ於テ此事ニ付イテ何ニ  
モ云ハレサリシ場合ニハ又ノ爲メ信託ハ履行セラレ又カ讓渡カ又ノ爲メ信  
託ニヨリ汝ニナサレシ事ヲ認ムル手紙ヲ書キコレニ署名スルナラハ信託ハ  
將來汝ニ對シテ履行セラレルノミナラス汝ハ始メヨリ人ノ爲メノ受託者ト  
取扱ハレ計算ヲナス義務アリ。

四、諸君ハ此兩條カ捺印証書ヲ要求セ。コトヲ知ルナラン。

五、諸君ハ有名ナ兩條第凡条及ヒ第十七條ト異リ第七條及ヒ第凡条ハ代理  
人ニヨル署名ニ付キ何ニモ云ツテ居ラスコトヲ知ル、第七條ハ法律ニヨ



リ信託ヲ宣言スル能カアル者ノ署名ヲ要求シテ居ル。

六 諸君ハ第七条ノ但書（此ノ但書ハ第八條ヲナシテ居ル）ハ法律ハ推定又ハ解釈ニヨリ発生スル信託法理ヲ保護シテ居ル。文書ノ要求ハ此ノ法理ヲ破ルモノテナイ。反之第九條ハ信託讓渡ニ署名セル書面ヲ要求シ其信託ヲ宣言又ハ法律ノ解釈ニヨリ発生セシヤハ同ノ所ニ非ラス。

七 衡平法裁判所ハ詐欺條例ハ詐欺ヲ保護スルモノニ非ラスト云フ第七條ヲ大膽ニ取扱ツテ居ル。例ハ控訴院ノ此ノ宣告ヲ見レハ分カル即チ一鏡キノ判例ニヨリ詐欺條例ハ詐欺ノ証明ヲ禁止スルモノニ非ラス。勿シテ受託者トシテ土地ヲ讓渡セラレタルモノク其レク讓渡セラレタルコトヲ知リテ信託ヲ否定シ自身土地ヲ要求スルハ詐欺ナリト云フコトヲ確定セラレタ (*Roche v. Cauley - Bouquet 1897*) 過去ニ是ヲ衡平法裁判所ハ各項ヲ解釈スルニ當ツテ各事項ニ法律ハ詐欺者ノ權トシテ成立タヌト云フ結果ノ但書カ書イテアル様ニ讀ンタ此ノ事ハ生存中ノ行為ニヨル信託ノ設定ニ欠ク可クテアル形式ニ関スル裁法ノ大恩及ヒ実体テアル

信託ハ又遺言ニヨリ宣言讓渡サレ得ル。諸君ハ詐欺條例ノ第七條及ヒ第九條ハ此ノ判例ヲ觀メ宣言シテ居ルコトヲ知ル。

有效遺言ノ履行ニ欠ク可カラサル形式ニ付イテ右トハ有名ナ一八三七年ノ遺言法ニ觸レル。余ハ有效遺言ニ非ラサル遺言書ニヨリ信託設定不能ヲ除イテハ此等形式ニ付イテ何ニモ云フ必要ナシ此ノ事ハ實際アルヨリ

ヒ諸君ニ取ツテ明白ノ様ニ思ハレル。其故一寸之ヲ説明スルニ止メル。遺言ニヨリ余ハ信託ニヨリテ丁及其相続人ニ土地ヲ遺贈スル。此ノ場合

特長信託ヲ明記シナイ。ソレカラ一人ノ証人ニヨリ署名セラレシ。紙片ニヨリ余ハ丁ハメノ爲メニ信託ニヨリ所有ス可シト余カ意思ヲ宣言スル。余カ死セセル場合ニハ余カ丁ニ遺贈セル土地ニ若ケル受益叔ハ法律上余ノ相続人ニ帰屬シ又ハ余ノ遺言カ特長遺贈ヲ包含スル場合ニハ受益叔ハ余ノ特長受遺者ニ行ル。シカシナカラ諸君ハ單ニ一人ノ証人ニヨリテ檢査セラレタ紙片ハ有効ナ遺言又ハ追加遺言ニ非ラスト復是スルカモ知レヌカ詐欺條例ノ第七條ハ二人ノ証人后一人ノ証人スラ要求シテ居ラヌカ故ニ信託ノ有効ナ宣言アリト云ハサルヲ得ナイ。

又他ノ例ヲ取ルナラハ遺言ニヨリ余ハ信託ニテ丁ニ爲テ遺贈スルカ信託ヲ  
明記セス而シテ口頭ニヨリ余ハ丁又ハメノ爲メノ受託者ナリト宣言スル  
此ノ場合ニ詐欺条例ハ信託カ動産ニ付キ宣言セラレシ場合ニ於テスラ書面  
ヲ要求セヌカ故ニ信託ノ有効ナ宣言アリト言ハサルヲ得ナイ。此ノ兩者ノ  
場合ニ於ケル答ハ法律カ余ヲ遺言処分ノ場合ニ要求スル形式ヲ觀察セスニ  
真ニ遺言処分アルトコロノモノヲ余カ試ムルト云フコトアル。  
其故余カ何等信託ニ付イテ云ハス丁ニ不動産ヲ遺贈シシカシテ丁ハメノ爲  
メ信託ニヨリ所有スヘシト宣言スルカ此ノ宣言カ遺言法ニヨリ要求セラレ  
タ形式ニヨリナサレス而シテ余カ生存中丁ニ通知セラレス及ヒ丁ノ承諾ヲ  
得サル場合ニハ遺贈ハ効カアルカ遺言ハ効カナキカ故ニ余ノ死後丁ニ何等  
信託ノ負担ナク有益ニ土地ヲ利用スルコトカ出来ル。  
反之余カ丁ニ信託ニヨリ遺贈スルカドシテ信託カ明記セス、シカシテ有効  
遺言ニ非ラサル紙片ニヨリ信託ハメノ爲メニナサレタルコトヲ宣言スル場  
合ニハ余ノ死後法律上余ノ相続人又ハ余ノ特定受遺者カ余ノ丁ニ遺贈セル  
土地ニ衡平法上権利アリ、又ハ信託ヲ設定スルヲ得ス而シテ丁ハ自身ノ爲

受益者ヲ保護スルコトヲ得ス、何ントナレハ余ハ余ノ遺言書面上ニ余ハ丁  
ニ受益者ヲ有セシムル意思ナキコトヲ明カニシタカテアル。シカシナカ  
ラ是等法理ノ前者ハ余ノ生存中丁ニ汝ハ單ニメノ爲メノ受託者トシテ所有  
スヘシノ余ノ意思ヲ通知シ、シカシテ丁カソノ資格ニ於テ所有スルコトヲ  
承諾スル場合ニハ制限ヲ受ケル。  
或人ハ自身ノ詐欺ニヨリ利得スルコトヲ許サス、而シテ衡平法裁判所ハ遺  
言法ノ規定スルモ此ノ原則ニ從カハシメタ。

*Hewitt* 氏ハ其ノ様ナル規則ヲ述ベテ居ル。乃チ遺言者カAニ動産又ハ  
不動産ヲ遺贈シ而シテ遺言者トAトノ間ノ了解ニ基キ受遺者A又ハ受贈者  
ハ受益者ノ一部又ハ全部ニ付イテBノ爲メニ信託ニヨリ所有スル場合ニハ  
裁判所ハBノ申立テニヨリAノ良心ニ於テ遺言者ノ意思ヲ実行スヘク判決  
スル。

*In re Boyes (1844)* Aハ遺言執行者タル并護士Bニ全額ヲ残ス遺言ヲ  
スル。彼等ノ間ニハBハAノ指図ニ從ヒ財産ヲ処分スヘキ旨カ合意サレル  
Aハ生存中何等ノ指図モBニ未ラスAノ死後Bカ手紙カ書翰中ニ発見セ

ラレ其ノ手紙ハBハXノ為所有スヘシト語ツテ居ル乃チBハAノ親族ノ為ニ信託ニヨリ所有セサルハカラスト。Aハ自身正式ニヨラサル遺言ヲ為ス能カヲフルコトハ不可能ナリ、若シ指図ヲAノ生存中ニ通知セラレシクシテBカ其指図ヲ承諾シタナラハXノ為メ信託ハ存在スルナラン。

*On re-Steal (1900)* ハA及ヒBニ共同ニ贈与セル場合ナク、Aハ信託ヲヲ贈サレタルモBハ贈カス、Aハ其儘半分ニ付イテ義務アリ、Bハ義務アリヤ、遺言前ニ信託カAニ託サレシ場合ニハBハ義務アルモ遺言信託カAニノミ託サレシ場合ニハBハ義務ナシ。

此ノ區別ハ *Parvelli* 裁判長ノ指図セル如ク實際穩当ナ理由ニ基クヌ、之ハ判例クニ種ニ分ケレタ結果テアル、乃チ一ノ判例ハ何人モ他人ニヨリテナサレシ詐欺ノ下ニ何等ノ権利ヲ 取ルコトヲ得サル規定ヲ是認シ他ノ判例ハ受益者カ彼自身ニ通知セラレシ秘密信託ノ規定ニヨリ利益ノ残額ヲ奪取スルコト可能ヲ恐レテ反対ニ結論シタ。

*Revelin* ヨリノ引用ニヨリ諸君ハ其自身合法ナル信託ニヨリト云フ言葉ヲ認マルコトヲ得 *Revelin* 氏カ考ヘテ居ル事ハ送信トシテ否認セラレ其

故ニ不法ナル或ル信託ニ関シ主トシテ適用セラルル法理ナリ、奈ハ丁カ受益者カ知ラズニ賦産ヲ遺贈スル然カシナカラ丁ハ余ト被ハ賦産ヲ余ノ靈魂ノ聖業ニ費スコトヲ合意ス余ノ法律上ノ相続人又ハ余ノ特定受遺者又ハ余ノ親族ハ裁判所ニ行キ丁ニ対スル許権ニ於テ被ヲ強制シテ此秘密信託ノ存在ノ有無ヲ云ハシムルコトヲ得ル、信託カ被ニ対シ証明セラレタル場合ニハ被ノ賦産ヲ有益ニ享有スル意思ナキコト明白トナリ信託ハ不法ノモノニシテ被ハ余ノ相続人、特定受遺者又ハ親族ノ為メニ賦産ヲ所有スルコトヲ要ス。

又、一八九一年迄ハ人ハ公益ノ為ニ動産、不動産ヲ残スコトハ出来ヌ、

余ハ丁ニ全程ノ終身所有不動産ヲ遺贈シタル場合ニ余ノ法律上ノ相続人カ秘密ノ不法信託カ丁ヲ強制シテ被ニ譲渡スルコトカ出来タコトヲ証明スルナラハ丁ハ公益ノ為メニ土地ヲ譲渡スルコトヲ要ス。

此ノ實際上ノ教訓ハ若シ汝カ其賦産ヲ犠牲ニ供シテ其靈魂ノ為ニ聖業ヲ主張セントスルナラハ其賦産ヲ汝ノ意中ノ者ニ残スト云フコトテアルカ汝ノ為サント欲スルコトヲ相手ニ託サヌ亦非常ニ注意セネハナラヌ。

彼カ汝ノ良友ナリシ場合ニハ聖契カ正当ニ主張セラレ得ル、聖契ヲ主張スルコトハ不法ヲナク聖契ノ為メニ支出スルコトモ亦遺法ニ非ラス、サレトモノ親族ヲ信託セサル場合ニハ秘密信託ハ成立セズ。

余ハ信託ノ設置ニ関スル法律カ如何ニ遺言法ニヨリ影響セラルルヤ示ス為メニ思ハス線線シタ、余ハコトニ信託カ宣言セラレル場合ニ欠クヘカラサル形式ニ付説明セン。

衡平法ハ形式ヲアル場合ニ無視スルノテ特色カアル。

先ツ第一ニ吾人ハ *Trusts* 条例ニ注意セテハナラス、例ハ吾人ハ帰屬信託 (*Resulting Trusts*) ノ法理ヲ注意シ而シテコノ法理ト其類推法理トヲ区別セテハナラス。価値アル約因ヲ得条々何等信託ニ付キ云ハス及ヒ其相続人ニ讓渡セル場合ニハ普通法上ノ古襲相続人ハ帰屬シ、而シテ亦古襲相続不動産上ノ権利モ彼ニ帰屬シ、其如ニハ帰屬信託ナシ、土地ノ売買ニ於テ賣主ニ取ツテ買主ニ及買主及其相続人ノ為メニ又ハ買主及其相続人ニ買主及其相続人ノ為ニ讓渡スルト云フコトカ必要ニナル、此事ハ必要テアルカ信託ニ付イテノ言葉ハ實際何等ノ法律上ノ効果ヲ有セズ、為條例ハ決

シテ適用ナシ、此ノ条例ハ或者カ他人ノ為メニ占有シテ居ル場合ノミ適用アリ、而シテ此ノ場合ニ買主ヨリ以外ノ人ニ何ニモ託ナサレズ、捺印ノ讓渡證書ハ一ハ四五年前ノ不動産法第ニ条ニ下ニ効カヲ生ス、其第ニ条ハ不動産物カハ直接ノ終身所有權ノ讓渡ニ付キ其讓渡ヲ為スルモノト推定セラルト規定ス、普通ノ賣買證書ニ於ケル信託ニ関スル是等ノ言葉ノ押入ニヨリ得ラルル唯一ノ目的ハ此ノ言葉カナカツタ場合ニハ或ル未来ノ買主カ価値アル約因カ各ヘラレタ証拠ヲ要求スルト云フコトニヨリ因難ヲ各ヘルナラント云フコトナリ、其如ニ言葉カアリタル場合ニハ価値アル約因ハナカツタトシテモ信託ハ買主ノタメニ明カニ宣言サレタカ故ニ帰屬信託ナシト答フルコトヲ得、反之無償讓渡ニ於テ信託ノ宣言ハ必要ナリ然ラサレバ無効ナリ、

讓受人カ讓渡人ノ他人ヲアル場合カアルカ近親關係ハ信託ヲ發生セシムルニ充分ナリト云フ昔ノ法理ハ決シテ廢止セラレス、勿論カAA及其相続人ニB及其相続人ノ為ニC及其相続人ノ為ニ讓渡セル場合ニハAハ何物ヲモ得ズBカ普通法上ノ不動産權ヲ得ルコトヲ記憶セザ

ルハカラサル色々ノ法現アリ。

諸君ハ<sup>1896</sup>ノ條例カ遺言ニ適合アリヤ否ヤニ付イテノ論争ヲ聞ク、此ノ論争ハ終身所有権ヲ遺贈スル能カヲ定ムル法令ハ<sup>1896</sup>ノ條例ニオケレルカ致ニアリ得ル。我現代法ニヨリ此ノ論争ハ無益ナモノト考ヘル。何トナレハ<sup>1896</sup>ノ條例ハ遺言ニ通用セラレ又ハ不動産遺言ノ解釈スル裁判所ハ條例ニヨリ違ハラレル規定ヲ解釈規定ト採用セシナレハナリ。余ウ丁及ヒソノ相続人ニメ及ヒ其相続人ノ為メ又ハ丁及ソノ相続人ニ生存中ハメノ為メ残余ハ<sup>1896</sup>及其相続人ニ信託ニヨリ單純ニ終身所有不動産ヲ讓渡セル場合ニハ丁ハ何物ヲモ得ス。普通法上ノ不動産権ハ<sup>1896</sup>ニ残余ハ<sup>1896</sup>ニ移転ス然シナカラ遺言解釈ニ於テ証書ヲ存留セラレ而シテ信託ニヨル受遺者丁ハ土地ハ單純ニ彼ニ遺贈セラレ彼ノ為メニ遺贈セラレ又ケレトモ普通法上ノ不動産権ヲ有スルト云フコトハ明白ナリ。勿論余ウ賣却信託ニヨリ丁ニ遺贈スル場合ニハ丁ハ普通法上ノ不動産権ヲ得ル。此ノ場合ノ信託ハ *Henry* 三ノ條例カ曰論シタ他人ノ為メ單純信託ノ一ツテハナイ。不明瞭ナ事件ニ於テスラ裁判所ハ受遺者丁ハ全遺言カ讀マレタル場合ニ彼

カ有ス意思アルコトカ明カトナリタルニ於テハ普通法上ノ不動産権ヲ有スト判決セリ。遺言ニヨル普通法上ノ不動産権ヲ受託者ニ帰屬セシメントセハ<sup>1896</sup>ハ彼等ニ在彼等ノ為メニ遺贈スルコトニヨリ此等ヲ明カニシタラカヨイト云フコトハ<sup>1896</sup>ノ草案規定ナリ。最も重要ナ最モ煩瑣ナル法現ノ解釈ノ一ハ法律上ノ言葉ハ其法<sup>1896</sup>上ノ意味ヲ有スハソ理解セラルルト云フコトトナリ。然カシテニト<sup>1896</sup>ノ信託ヲ参照スルト云フコトハ普通ナリ。

信託ニハ既行信託ト未行信託トアリト云ハレテ居ル。此ノ區別ハ遺言解釈ニ当リ重要トナル。遺言者ハ設定行爲ヲ自身爲シ又ハ彼ノ死後爲サレル知分行爲ノ大種ヲ書クコトヲ得。

此ノ區別ノ原因ハ<sup>1896</sup>ノ *Williams Case* ニ於ケル規定トナリ。此ノ規定ハ遺言ノミナラス生存中ノ行爲ニ適用アリ。其レハ衡平法上ノミナラス普通法上ノ不動産権ニ適用アリ。余ウ丁及其相続人ニ及其者ノ為メニ生存中ハ<sup>1896</sup>ノ為メ残余ノ<sup>1896</sup>ノ直系血族ノ相続人ニ信託ニヨリ遺贈スル場合ニハ<sup>1896</sup>ハ衡平法上ノ限定相続不動産権ヲ有ス。然シナカラ余カ全額ヲ受託者ニ授シ

彼等ニ土地ヲ買ヒ生存中ハメノ為メニ残余ハ彼ノ直系血族ノ相続人ノ為ニ  
設定セヨト指図セシ場合ニハ此ノ未行信託ノ場合ニ於テ *Shelley's rule* カ  
適用サルルヤ否ヤハ問題ナリ。

他ノ言葉ニヨリ余カ真意ハメカ單ニ生存中不動産ヲ有シ残余ハ彼ノ初メ  
ノ子及ヒ其他ノ子ニ限定相続ニヨリ所有スヘキテアツタト云フコトヲ示ス  
ナラハ例ハハ余カメハ不法行為ノ非難ヲ受ケスニ所有スヘシト云フナラハ  
裁判所ハ遺言者ハ如何分行為ヲ為サス彼ハ單ニ如何分行為ノ大様ヲ書イタニ過  
ギナリ、吾人ハ彼ノ真ニ意味セルコトヲ知ル所シテ吾人ハ彼ノ意思ナリト  
信スルトコロノモノヲ無効ニスルコトヲ出来ルト云フコトヲ得ル。

*John* *Jane* ハ結婚セントシテ得ル、彼等ハ詳細ノ設定行為ノ準備ヲ  
後タス大体ヲ定メ全權ノ *John* ノ終身所有不動産ハ此後生存中ハ *John* ニ  
死後ハ *Jane* ノ為一年五百磅ノ買祖ノ下ニ *John* ノ直系血族ノ相続人ニ  
設定スヘシト云フ。

此ノ場合ニ於テ裁判所ハ *de rule in Shelley's Case* ハ此ノ簡單ナ未行託

書ニ適用ナシト、ヤヤ云ヒ得ル、土地カ合意書ニ記載セラレタル言葉ニヨ  
リ設定セラレタル場合ニハ當事者ノ意思ハ無効ナルコトハ殆ント明カナリ、  
合意ノ目的ハ結婚ノ子供ニ供給スルコトナリ、シカシテ夫カ限定相続不  
動産者ヲ有スル場合ニハ此ノ事ハ子供遺ノ為メノ是メトナラヌカラテ裁  
判所ハ諭シテ居ル、夫ハ限定相続不動産者ヲ為ケ土地ヲ賣リ売上金ヲ浪費  
スルコトヲ出来タ、此單ナル未行合意ニ於テ直系相続人ハ始メノ及他ノ子  
供ヲ意味セルコトヲ相像セネハナラス。

既行信託ノ解釈規定トクニ吾人ハ未行信託ノ解釈規定乃テ遺言ニ於ケル未  
行信託及ヒ結婚ニ於ケル未行信託ノ二規定ヲ有ス。

既行信託ノ場合ニハ捺印証書ニヨリテサイ裁判所ハ單ニ衡平法上ノ権利カ  
取扱ハレテ居ル場合ニハ全証書ヲ普通法上ノ権利ノ場合ヨリ一層自由ニ觀  
察スル、例ハ衡平法上ノ古襲財産ハ制限無ク *in fee simple* ト云フ  
言葉ナシニ捺印証書ニヨリ与ヘ得ル

信託ハ最モ非法律約ノ言葉ニヨリ設定サレ得ル、此ノ事ハ遺言ノ取扱ニ於  
テ一層明白ナル、過去ニ於テ衡平法裁判所ハ信託ノ言葉ヲ曲解セシムル

言葉ヲ推エント努メタ様ニ見エル遺言者ハ丁ニ歿シ丁ハ或方法ニ於テ又ハ或ル目的ノ為メニ使用スヘシトノ願望ヲ表示スル。此ノ方法、此ノ目的カ一途シテ居ル場合ニハ裁判所ハ遺言上ニ信託ノ遺言即チ懸望信託ヲ見ル、懸々遺言者ハ彼ノ歿産ヲ妻ニ遺シ、彼ハ曰ク余ハ彼女カ子供ヲ扶養スルヲ信スル又ハ勿論彼女ハ子供ヲ扶養スルト、此ノ場合裁判所ハ熱心ニ信託アリト主張スル近年懸望信託ノ法理ノ適用ニ付シ反動カアツヌ。遺言者ハ有功ナル信託トナルコトヲ願望セズ彼ノ遺言ニ於テ如何ナル種類ノ願望、希望、期待ヲ表示スルコトハ遺言者ニ取リ甚タ不謹慎ナリト云ハサルヲ得ス。 *In re Williams* 遺言者ハ彼ノ妻カ詳細規束ニ從ヒ彼ノ願望ヲ実行スルナランノ完全ノ信託ニヨリ彼ノ妻及其相続人、遺言執行者、遺產管財ノ讓受人ニ歿産ノ遺産ヲ与フ。彼女ハ生命保険ヲ締結セズハナラヌ而シテ彼女ノ遺言ニヨリ彼女ハ保險証書ノ下ニ支給ハルル金及ヒ遺言者ノ生命保険ノ下ニ支給ハルル金ヲ彼ノ娘 *Katy* ニ遺ス。 *Knudley and Smith* 裁判長ハ妻ハ何等条件又ハ信託ノ付着セズ余産ヲ有スト判決セリ。

勿論現代ノ反動前ト垂モ裁判所トシテ此レハ實際アリノママニトハ履行スルコトハ出来スト云ハネハナラナカツタ。例ハ遺言者ハ妻ニ歿産ヲ与エ而シテ彼女ニ彼女自身、彼女ノ子供ノ為ニ使用シ及ヒ教会、貧三人ニ寄附スヘシト願望スル、之ハアマリニ莫然ナリ。余ハゴ、ニ極テ重要ナル規定ヲ説明スル。此ノ規定ハ価値アル約因ニヨリ設是サレシ信託ト無積信託トヲ區別シテ居ル。 *Revin* 氏ハ価値アル約因カアリ信託カ設是セラルル意思アル場合ニ法律行為カ履行信託ニヨリテ生セサルナラハ衡平法裁判所ニヨリ契約トシテ履行セラルルカ歿ニ形式ハアマリ重要ニ非ラスト論述シテ居ル。此等ハ何ニテ意味スルヤ、余ハ女ト合意スル乃チ若シ女カ余ノ娘ト結婚スルナラハ女及ヒ彼女及ヒ子供ノ為ニ或ル信託ニヨリ指名又ハ無指名ノ受託者ニソノ農場ヲ讓渡スト、此合意ハ書面ニ作成セラレ此書面ニ余ハ署名スル、女ハ余ノ娘ト結婚スル、コトハ法律行為ヲニツノ方面ノ中ノ一ニノレルコトヲ出来ル、何ノ方面ニ吾人カ其ヲノレルヤハ大イシタ何題テナイ、  
此ノ場合ハ契約テアル、衡平法裁判所カ直接履行ヲ強制スル契約テアル

ル。

(2) 此ノ場合ハ既ニ信託ノ宣言カアル。

普通法上ノ不動産カ終リニハ其受託者トナル者ニ讓渡セラレスシテ而シテ信託ハ受託者ヲ欠カスルモ決シテ無効ナラスノ衡平法ノ基本規程アルト云フコトハ眞実テアル。余ハステニ汝、汝ノ妻及ヒ子供ノ爲メノ受託者ナリ。何ノ方面ニ於テ事件ヲトカ速ヘルヤハ大イシタ問題ニ非ラズ何トナレハ土地ノ売主ハ其買契約カ署名セラル。ヤ否ヤ、非常ニ多クノ目的ノ爲メニ買主ノ爲メノ受託者ト取扱ハレ得ル他ノ衡平法ノ規定アルカラテアル。此場合ニ於テ汝及ヒ妻、子供ハ余カ既ニ某地ヲ受託者ニ讓渡シ正式ノ設是行爲ヲナシタル場合ニ汝カアルノテアラウト同株ノ地位ニ居ル。汝ハ余ニ對シテ信託ヲ強制スルコトヲ出来ル。若シ余カ死ヌナラハ汝ハ余ノ遺產管職人ニ對シテ信託ヲ強制スルコトヲ得ル。若シ余カ愚意ヲ以テ何種アル約因ナシニ某地ヲXニ与ヘシ場合ニハ汝ハXニ對シテ信託ヲ強制スルコトヲ得ル。余カ愚意ヲ以テ某地ヲYニ売却シ讓渡スルナラハ汝ハYニ對シテカ實際信託ヲ存在ヲ知ラス善意ニテ買取リタル場合ヲ除イテ信託ヲ強制スルコトヲ得。

ルコトヲ得。

實際不動産カ正当ニ受託者ニ讓渡セラレタル場合ニハ汝ハ最早施ス術ナシ。

衡平法上ノ裁判ヲ知ラス好種ヲ支払ヒタル善意ノ買主ノ手ニ普通法上ノ不動産ノ来ル掛合ハ各受益者ノ違ケネハナラヌ掛合ナリ。及ニ余ノ約束ニ對シ何種アル約因ナカリシ場合ニ付テ説明セン。余ハ書面ニヨリ汝ノ爲メニ信託ニヨリ或土地ヲ受託者ニ讓渡スルコトヲ約スル。何セナラハ汝ハ余ノ良友テアルカラヌハ、結婚前汝ニ何ニカス可ク約束セサリシモ汝ハ既ニ余ノ娘ト結婚セルカ故ナリ。勿論コノ場合強制シ得ヘキ契約ナリ。吾人ハ單ニ普通法上又ハ衡平法上強制シ得サル無償約束ヲ有スルニ過キス。更ニ一歩ヲ進メテ余ノ約束カ捺印証書ニヨリ爲サレタト仮定セヨ。此場合ニ捺印ニヨル約束ハ何種アル約因ナシニ爲サレシト虽モ有效ナルカ故ニ普通法上檢合時債權ニヨリ強制シ得ル約束ナリ。故ニ余カ破約セハ汝ハ債權者ト得ルカ汝ハ直接履行ヲ得ス有ントナレハ無償約束ノ直接履行ハ捺



印約束ニヨルト虽モ強制スルコトヲ得ヌカ其ナリ、汝ハ單ナル契約上ノ権利ヲ有ス、衡平法ハ汝ノ爲メニ絶対ニ何ニモセヌ、余ハ汝ノ爲メニ信託ヲ宣言セヌ、單ニ余ハ汝ノ爲メニ受託者ニ讓渡スルコトヲ約シタ、此ノ場合ニハ其レハ眞實ナルモ約束セシニ非ラスヤト云フモ余ハ、約束セルモ其ノ約束ハ例ハ捺印ニヨルト虽モ衡平法上強制シ得サルモノナリト答フル。

又他道アル約因アル場合ニモ信託成立ノ約束ヲ信託成立ヨリ區別スルト云フコトハ僅々吾人ニ取ツテハ不必要ナリ、然シテ法律行為カ無償行為ナル場合ニハ此ノ區別ハ重要トナル、*Edwards v. Edwards* ノ等件ニ於テ *Ford Eldon* ハ下ノ如ク述ヘテ居ル、余ハ此ノ區別ヲ認ムル、汝カ汝ヲ受益者ナラシムル裁判所ノ捺印ヲ未メントスル場合ニ証書カ無償ナルモノナリニ於テハ汝ハ汝ヲ受益者ナラシムル目的ノ爲メニ援助ヲ受クルヲ得ス、乃チ債券贈与契約カ無償ナルニ於テハ此裁判所ハ無償契約ヲ実行セシムルヲ得ス、然シテ無償契約ナリトモ當事者カ完全ニ債券ヲ贈与セルニ於テハ普通法上讓渡ハ有効ニ爲サレ衡平法上ノ権利ハ此裁判所ニヨリ強制シ得ル。

無償ノ法律行為ニ付イテハ吾人ハ強制シ得ス信託成立ノ約束ト信託成立トヲ別カニ區別セネハナラス。

### 第六章 黙示帰属推定信託

余ハココニ既述ノ無償信託ノ成立ニ付キ少シク附言セネハナラス、吾人ハ無償信託ハ完全ニ讓渡サレタ場合ニハ有効ニシテ強制シ得ルト云フ規定ヲ有ス。

勿論此原則規定ニハ或程ノ無償ノ法律行為ヲ無効ニスル重要ナル例外法規アリ特ニ *W. Daykin* ノ二条例即チ債権者ノ爲メノ第十三条ノ条例、置ノ爲メノ第二十七年ノ條例カ其例外規定ニシテ又破産法モ例外規定ト考ヘラルハ是等ノ無効ニスル例外規定ヲ除イテ無償ノ信託ハ完全ニ讓渡セラレタ場合ニハ有効ナリ、  
反之無償信託讓渡契約ハ強制スルコトヲ得ス、*Ford Eldon* ノ云フ如ク無償契約者ハ受益者ヲラシム可ク衡平法裁判所ノ援助ヲ受クルコトヲ得ス。

然ラハ完全ナル無償信託ノ設是トハ何ヲ意味スルカ、設是者ハ下記ノ二者ノ中一ヲ為ス意思ヲ有セサルヘカラス、乃チ其者ハ何トカ或種ノ信託ニヨリ当該財産ヲ所有スヘキコトヲ企圖スルコトヲ要ス又ハ其者ハ指定信託ニヨリ所有スル以外ニ若テ当該財産ヲ保留ス可ク受託者ナラシムルコトヲ意味セス、彼ハ何トカ受託者トナルコトヲ意味ス此ノ場合ニ河原ハ次ノ條ニナル、乃チ彼ハ既ニ受託者ニ讓渡シ及ヒ既ニ信託ヲ為シ得ル全權ノ事ヲ為シタカ、此等條ニ付イテ吾人ハ或ル從屬規定ヲ有スル。

(一) 企圖信託ノ目的物カ設是者ニ帰屬セル或ル普通法上ノ不動産ハ権利ナル場合及共不動産又ハ権利カ普通法上讓渡シ得ル場合ニハ設是者カ不動産又ハ権利ヲ受託者ニ讓渡シ得ル為メニ普通法ノ要求スル全權ヲ為ササルヘカラス、彼ク更又ハ書籍ノ如キ動産ノ普通法上ノ所有者ナル場合ニ於テハ受託者ハ捺印証書又ハ引渡ニヨリ動産上ノ所有權ヲ移転スルコトヲ要ス、彼名義ノ回債ヲ設是セントスル場合ニ於テハ受託者名義ニ書換フルコトヲ要ス、彼ク如何ナル方法ニ於テスルモ普通

通法上ノ讓渡ヲ完全ニスルコトヲ忌レル場合ニハ衡平法裁判所ハ援助セ

ス、  
例へハ彼カ公法上ノ借地人ニシテ其名カ額主ノ公法ニ登録セラレアル場合ニハ受託者ニ該公法借地ヲ引渡ス單ナル契約ハ完全ナル讓渡アリト云フコトヲ得ス、完全ナル讓渡アリト云ハンニハ引渡及ヒ額主、許可アルコトヲ要ス、捺印ノ讓渡契約ハ普通法裁判所ニ於テ有效ナリ故ニ設是者カ公法借地ヲ引渡ササルニ於テハ受託者ハ設是者ニ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得、而シテ受託者ク損害賠償ヲ得タル場合ニ於テハ該金額ヲ信託ニヨリ所有スルコトヲ要ス、及之衡平法裁判所ハ何等ノ援助ヲモ与ヘス、乃チ捺印ニヨルト虽モ無償契約ノ直接履行ヲ許サス。

(二) 設是者カ設是セント欲シタ權利ハ一種ノ普通法上ノ權利ニシテシカモ普通法上讓渡スルコトノ不能ナル權利ナルコトヲ最近迄屢々起リ得ル、何スカ彼ニ捺印又ハ單純契約ニ因ル債務タルヲ回ハス債務ヲ領ツタ、而シテ債権者ハ此債権ノ利益ハ彼ノ妻子ノ為信託ニヨリ所有セラルルコトヲ願望セリ、然ラ此債権ハ証受人ニ債権証券上ノ普通法上ノ權利ヲ

夫フル為ニ讓渡スルコトヲ得ヌ。尚此ノ場合ニ衡平法裁判所カ汝ハ汝ノ権利ノ普通法上ノ讓渡ヲ実行スヘシト云ツタ場合ニソレハ莫ク不能ヲ強ヒルモノニシテ結果ニ從ツテ汝ハ汝自身受託者トナリ得ル以外此種ノ権利(債権)有効ナル無償讓渡実行ヲ得ナスコトヲ得スト云フニ等シ。

然レラ幾分躊躇ノ旨 衡平法裁判所ハ汝ノ如ク証セリ、乃ケ設置者カ受託者ニ書面ニヨル債権讓渡ヲ辱セル場合ニハ此讓渡ハ普通法上無効ナルモ、吾人ハ今考察シテ辱ル規定ノ意味ニ包含セラルル完全ナル讓渡ナリ。然レラ一八七三年ノ裁措法第二十五条第大号ノ下ニ此種ノ事件ハ普通法上ノ債権者ハ其債権ヲ普通法上讓渡シ得ルカ故ニ消滅スル、普通法上讓渡ヲ為シ得ル普通法上ノ権利ヲ有スル者カ彼自身受託者トナラス有効ナル無償讓渡実行ヲ為サントスル場合ニ於テハ裁措法ニ規定セラレシ形式ニ從ヒ受託者ニ彼ノ権利ノ普通法上ノ讓渡ヲ実行スルコトヲ要ス。然レラ此等ハ少ナクモ疑ヒアリ。

*In re Griffin* ノ事件ニ於テ *Dyson* 裁判長ハ裁措法ノ下ニ強制セラレシ形式ハ債権ノ無償讓渡ニ不可及ノモノニ非ラスト考ヘテ居ル様ニ思ハレ

ル

三 申込讓渡行爲 (*the proposed settlement*) ノ目的物ハ純粹ニ衡平法

上ノモノテアリ得ル。  
例ハハ丁ハ自ノ為メ信託ニヨリ土地ヲ所有スル、又ハ自ノ為メ信託ニヨリ債券ヲ所有スル、自リ不動産上ノ権利又ハ利益ヲ讓渡セント欲スル、此ノ場合自ハ何等讓渡スヘキ普通法上ノ権利ヲ有セス、彼ノ目的ヲ達スル一ノ方法ハ旧受託者丁ニ新信託ニヨリ土地又ハ債券ヲ所有不可ク指圖スルコトヲアリ他ノ方法ハ新受託者丁ニ新受託ニヨリ彼ノ衡平法上ノ権利ノ讓渡ヲ実行スルコトナリ。  
此ノ場合普通法上ノ権利ナキカ故ニ捺印証書ヲ必要トセス單ニ新受託者ニ對スル書面ニ依ル讓渡ノミニテ充分ナリ。  
四 無償ノ讓渡行爲ヲ為サントスル者ハ自身受託者トナルコトニヨリ為スコトヲ得。

彼カ彼ニ歸屬セル或ル普通法上又ハ衡平法上ノ権利ノ或ル目的ノ為メニ自身受託者タリト明カニ宣言スル場合ニ於テハ此レテ充分ナリ。

当該権利ノ不動産物収ナル場合ニ於テハ訴訟裁例ニヨリ宣言ハ署名セル  
文書ニヨリ立証セラレサルハカラス、他ノ場合ニ於テハ口頭大テ充分ナ  
リ。

ココニ吾人ハ或ル重要規定ヲ述ブルニ至ル、即チ不完全贈与ハ信託ノ宣  
言ト解散セラレヌト云フ規定ニナリ。

余カ *Thomas* ト呼フ息子ヲ有シテ居ル、余ハ彼ニ手紙ヲ書キ次ノ如ク云  
フ、乃チ余ハ汝ニ余ノ某地 *Kings Street* ニ於ケル余ノ賃借地ノ家屋余  
ノ名義額面十磅ノ買價、余ノ名義ニ於ケル増テ左フ、

此レハ無効ナリ、余ハ何物モマヘス、手紙ハ古襲不動産又ハ賃借地ヲ讓  
渡セヌ、因價ヲ讓渡セヌ、動産上ノ所有権ヲ移サヌ、

手紙ヲ善ク代リニ余ハ某地賃借地ノ家屋、酒ヲ讓渡スト云ハヌ讓渡スル  
契約ヲ為スノ捺印契約証書ヲ作成セシ場合ト虽モ此大ニテハ完全ナル贈  
与アリト云フコトヲ得ス、

不完全贈与ナルカ故ニ裁判所ハ信託ノ宣言ト看做サス、余ハ自身受託者  
タルコトヲ意味セヌ左フルコトヲ意味セルコトハ全ク明カニセリ。

此ニツノ意思ハ非常ニ困難ナリ、乃チ贈与者ハ彼ノ権利ヲ処分セント意  
味シ自身受託者タラントスルモノハ苛重ノ負担ノ下ニ来ラス彼ノ権利ヲ  
保留セセントスル、前者ノ意思ハ前者ヨリ極メテ稀ナリ、入ハ屢々其親  
族ニ或物ヲ与エント意味スルモ自身受託者タラント意味スルモノニ非ラ  
ス、不完全贈与ハ信託ノ宣言トナラス、此輩ハ三リ *Richards v. DeBart*  
*ago* *Heathley v. Ashburn* ノ事件ニヨリ説明セラレテ居ル、  
夫カ屢々彼ノ妻ニ或動産例々ハピアノノ贈物ヲセント欲シテ居ル、シカ  
ルニ一八八二年ノ妻ノ歿差法前此ノ場合非常ニ困難カマツタ、  
彼ハ下託ノ二者ノ中一ヲナスナラン、乃チ彼ハ彼ノ妻ノ別箇ノ使用ノ為  
ニ信託ニヨリ受託者ニピアノヲ与フルカ、又ハ彼ハ彼ノ妻ノ別箇ノ使用  
ノ為メ自身ピアノノ受託者タリト宣言スルカナリ、然シ乍ラ彼ハ一モナス  
スコトヲ出来ナカツタ、彼ハ妻ニ動産ノ普通法上ノ所有権ヲ讓渡スルコ  
トハ出来ナカツタ、

此ノ場合彼ノ妻ニ余ハ此ニ此ノピアノ又ハ禁止ヲ与フト云ツタト返走シ  
至ニ彼カ其物ヲ妻ニ別讓シ妻カ禁止ヲ行ケントスルナラハ此ノ事件ノ困

雖ヲ感シ裁判所ハ此ノ不完全贈与ハ信託ノ宣言ト看做ト云フナラン、夫ハ妻ノ別圖ノ使用ノ爲、自身受託者タルヘク努ムルヲ要ス、然シ乍ラ此ノ判例ハ録ヲ存スル判例ナリト信ス、

然シ乍ラ一八八二年ノ妻ノ賦産法ハ此ノ特別ノ困難ヲ取除イタ、余ノ説明セント努メテ居ル規定ハ重要ナル規定ナリ、乃チ不完全贈与ハ信託ノ宣言ト解セラレタ、然シ乍ラ価値アル約因アル場合ニハ然ラス何トナレハ信託ヲ設定ス可ク対価アル契約ハ直接ニ履行シ得ル契約ニシテ其地ニハ既ニ信託ノ設定アリ得レハナリ、

結管ニ依ル子供ハ結管ノ約因中ニ入り無償契約者ニ非ラスト云フ奇妙ナ法理カアル、此ノ事ハ不完全贈与ヲ排除スル問題ニ因シテ重要トナル、結管ニヨル子供ノ爲信託ニヨリ所有スル土地ヲ讓渡スル結管ノ約因ニ於ケル契約ヲ例ニ取ル、讓渡カ爲サレサル場合此ノ契約ハ子供ノ訃事ニヨリ廢絶セラル、前管ノ子供ノ地位ト対照セヨ結管ニヨル子供カ約因ヲ受フルト云フコトハ困難ナリ、此ノ場合ハ例外トシテ取扱ハレネハナラス、コレハ約因去理カ充分考イラレサリシ時代ノ建物ナリ、

捺印ニヨリ 言葉ニ於テハ完全ナリトニヒトモ無償ニヨル讓渡ハ其目的物ノ單ニ將來ノモノテアル場合ニ於テハ衡平法又ハ普通法ノ何レニ於テモ廢絶スルコトヲ得ス、

然シ乍ラカナル期待ヲ讓渡スル対価アル場合ノ契約ハ有效ニシテ衡平法上廢絶シ得ル、

余ハコノ當事者ノ行爲ニヨリ信託ノ設定ニ因シ説明ス、

*Reverend* 其他ノ學者ハ信託ヲ明示及黙示ノ信託ニ分ツ、然シ乍ラ此ノ已別ヲ設クルハ困難ナリ、何トナレハ信託ノ設定ニハ形式上ノ用語ヲ必要トセス又信託ハ當事者ノ行爲ニヨリ設定セラルル場合ニ於テスラモ或ル言葉カ使用セラレルコトヲ殆ント必要トスルカ故ナレハナリ、(著者ト虽指ニヨリ然スコトニ依リ信託ヲ設定スルヲ得ル) 此ノ區別ハ結局明瞭、及不明瞭ノ言葉ノ區別トナル、此ノ明瞭モ程度ノ問題ナリ、

*Reverend* 黙示信託ノ如クハ余ハ希望ス、余ハ要求ス、余ハ希望スノ如ク言葉ニヨリ遺言者カ信託ヲ設定スル場合ヲ取扱ツテ居ル、

余ハ希望スハ余ハ信託スルト殆ント同様テアル、余ハ彼内此事ヲナスノテ

アラウコトヲ信任スルト云フコトハ彼カ此ヲ為ステアラウト云フ信託ニ  
ヨリテト同様ナル、故ニ此兩者間ニ確然タル區別ヲ為スコトハ出来ス、  
余ハ此ノ區別ハ重要ナモノト考ヘテ明示信託ト云フ言葉ハ當事者ノ行為乃  
チ宣言ニヨリ設立セラレシ全テノ信託ニテエラレシ事反之黙示信託ハ

*Howell*ノ所謂法律ノ行為ニヨリ設立セラレシ信託ヲ表示シテ居ル事ヲ非  
常ニ善ク諸君ハ知ルナラン、

諸君ハ契約法ヲ研究サレル場合ニ此レト同様ノ不明瞭ヲ時トシテ黙示契約  
ハ言葉ニヨルヨリモ寧ロ行為ニヨリ成立スル真ノ契約ヲ表示シテハ  
黙示契約ハ法律ニヨリ設立セラレシ契約即チ準契約（真ノ契約テハナイカ  
多クノ目的ノ為メニ恰モ契約カアツタ如ク取扱ハレル）ヲ表示スルコトニ  
注意カ向ケラレルナラン、同様ニ吾人ハ法律ノ效力ニヨリ設立セラレシ信  
託ヨリ準信託ト呼フ、此語ハ實際使用サレテ居ラス、明示及黙示ノ信託ノ區  
別ハ明示信託ノ違反ニ基ク訴訟ヲ出訴期間法ハ停止セスト云フ衡平法ノ規  
定ニヨリ吾人ノ注意ヲ喚起シタ、此レト同様シテ明示信託ト云フ語ハ異ツ  
タズイ意味ニ使用セラレタコトカ明白ニナル。

*Scott v. Ashwell* ニテ信託資金カ投資ノ行為任者ニヨリ弁護士ニ委  
任セラレタ弁護士ハ出訴期間法ノ保護ヲ受クル権利ナシト判決セラレタ彼  
ハ明示受託者又ハ設立行為ノ受託者又ハ設立行為ノ受益者ノ為明示受託者  
ノ地ニアリト判決セラレタ、

諸君カ明示受託者ト他ノ受託者トノ區別ノ困難ヲ知ラントセハ此事件ハ研  
究スルニ価値アル事件ナリ、

*Bowen* 裁判長ハ此事件ニ於テ下ノ如ク云ツテ居ル、乃チ信託關係ノ下ニ  
或差ヲ委託セラレタル者ハカクル或差ノ單ナル推定受託者ニ非スシテ明示  
ノ受託者ト取扱ハルハキナリト云フ事カ疑ナク確定セラレタト、

而シテ *North American Company v. Watkins* 事件ト比較スルヲ要  
ス、此ノ場合ニ於テ被告ハ原告ヨリ広莫ノ土地ヲ購求ス可ク送金サレシ迄  
キ権限ヲ有スル代理人トシテ明示ノ受託者ナリト判決サレタ、

*Howell* ハ信託ヲ更ニ分類シテ居ル、法律ノ効力ニヨリ設立セラレタ信  
託ハ帰屬信託ト推定信託ニ分ツ、  
帰屬信託ハ又次ノ如ク再分セラレル、

2. 被自身普通法上及衡平法上ノ権利者カ普通法上ノ権利（不動産上ノ）ノ譲渡、遺贈ヲナシ而シテ其者カ衡平法上ノ権利ヲ処分セシト意味スル何物モナキ場合

3. 賦産ノ置主カ第三者ノ名義ニテ普通法上ノ権利ノ譲渡ヲ得ルモ被自身受益権ヲ占得セサル意思ヲ指示スル何物モナキ場合

4. 帰属信託ハ衡平法上ノ権利ノ処分ノ場合ニ生セスシテ普通法上ノ権利ノ処分ノ場合ニ生スル

一級原則ハ譲渡、遺贈ニ基キ譲受人又ハ受遺者カ單ニ普通法上ノ権利ヲ有スル意思アリ衡平法上ノ権利ハ処分サレサルマ、ニアルト云フコトカ明カニナリタル場合ニ於テ普通法上ノ権利カ設定者ノ不動産ヨリ生スル

場合ニハ被自身又ハ被ノ相続人ト及ヒ被ノ動産ヨリ生スル場合ニハ被自身又ハ被ノ遺産管理人ノ帰属スレト云フコトニアリ

普通法上ノ権利ヲ賦与セラレタル者ノ賦産ノ享有ヲ排除スル意思ヲ明ニセラルル場合ト明示セラレヌ場合アリ

先ツ明示セラルル場合ヲ説明ス

余ハ信託ニヨリAニ及ヒA及ヒソノ相続人ノ為ニ土地ヲ譲渡スルニ信託ヲ宣言セス

信託ハAノ為ニ宣言セラレ其故Aハ普通法上ノ権利ヲ得ルカ故ニ信託ハ屬セス、然シ乍ラ余カ、信託ニヨリテト云フ語ニヨリテAハ自身ノ為メ土地ヲ享有スルコトヲ得スト余ノ意思ヲ宣言シタ、一方余ハ被ヲ特別ノ信託ニヨリ拘束セス、此ノ場合信託ハ一條ノ為メ生ス、遺言ニヨリ余ハ余ノ

全テノ不動産ヲ信託ニヨリAニ及ヒA及其相続人ノ為ニ余ノ全テノ動産ヲ信託ニヨリAニ及フ、不動産ノ信託ハ余ノ死後余ノ法律上ノ相続人ノ為ノ

動産ノ信託ハ余ノ親族ノ為メ生ス、此ノ條ノ場合ハ勿論極ク稀レテアルカ

乃チ信託ニヨリAニ及ヒ而シテ決シテ信託ヲ宣言セヌト云フコトハアリ得サルトコロナリ

然シ乍ラ余カ信託ニヨリAニ及ヒシカシテ余カ余ノ受託者ニ及ヒシ余テノ利益ヲ消費セヌヨウ信託ヲ宣言スルニ極テ普通アリ得ル事ナリ、例ハ遺言ニ

ヨリ余ハ余ノ全テノ賦産ヲ受託者ニ及ヒ生存中妻ニ賃料及収入ヲ支払フコトヲ信託スル、而シテ此ノ場合余ハ妻ノ死後為サルヘキコトヲ云ハス

此ノ場合ニハ余ノ妻ノ生存中ハソノ利益ヲ妻ニ与フル下ニ余ノ相続人又ハ親族ニ付シテハ帰屬信託カアリ得ル。遺言者カ信託ニヨリ賦産ヲ与ヘ或ル場合ニ於テ受益物ヲ消費スル信託ヲ宣言スルカ或ル予見シ得サル事故(早死ノ如キ)ノ為ニ此等ノ信託ノ或物カ無効ニ帰スルト云フコトク可成普通アリ得ル此ノ場合ニハ処分セラレサル利益ハ帰屬ス。同様ニ又、遺言者カ信託宣言ニヨリ或ル法律規定ニ違反シテ法律ノ作為禁止事項ヲ為ス可ク努ムルト云フコトモ普通アリ得ル。此ノ場合彼ノ信託ノ或物ハ無効トナリ受益者ハ彼ノ相続人又ハ親族ニ帰屬ス又ハ特定遺贈ノ下ニ他人ニ移ル彼ニ付ハラレシ全テノ権利ノ受託者ト宣言セラレシ者ハ實際彼カ遺言者ノ相続人又ハ親族トナリタル場合ヲ除キテハ何等ノ受益者ヲモ主添スルコトヲ得ス。

*Heurmi* ハ次ノ如ク述ヘラ居ル。乃チ信託カ法律ノ推定ニヨラス記載証書ノ効力ニヨリ設定者又ハ其遺產管財人ニ帰屬セル場合ニハ受託者ハ口頭ニヨル本節ノ証拠提出ニヨリ帰屬信託ヲ自由ニ無効ニ帰セシムルコトヲ得ス。

余カAニ及ヒA及其相続人ノ為メ或ル信託ニヨリ土地ヲ遺贈スル。此ノ信託ハ余ノ生存中ハ無効ナリ。Aハ余カ彼(A)ニ信託カ無効トナレル場合ニ土地ヲ享有スルコトヲ意味スル証拠ヲ提出スルコトヲ許ルサレヌ。何人カノ為メAヲ受託者トナシタ。而シテ何人モ居ラヌ場合ニハ彼ハ余又ハ余ノ遺產管財人ノ為メノ受託者ナリ。次ニAカ譲受人、受遺者、受託者ナリヤノ意思ノ宣言ヲ明示セヌ場合ヲ述ブ

遺言ニヨリ余ハAニ与ヘ而シテAヲ受託者ナラシムル意思ヲ宣言セサル場合ニハAハ受託者ニ非ラス。而シテ生存中何格アル約因ニヨリ余カAニ普通法上ノ権利ヲ帰屬セシムル為メニ譲シ而シテ彼ヲ受託者タラシムル意思ヲ宣言セサル場合ニハAハ受託者ニ非ラス。

然レバ生存者間ノ無償譲渡ノ場合ニハ然ラス。価値アル約因ナク余カAニ及ヒA及其相続人ノ為メニ土地ヲ譲渡スル。此ノ場合信託ハAノ為メニ宣言サレハAハ普通法上ノ権利ヲ得ルカ故ニ信託ハ帰屬セス。生存中ノ行為ニヨリ対価ナシニ余カ普通法上ノ権利ヲAニ移転スル。而シテ信託ヲ宣言セサル場合ニ一般約推定ハ余カAニ利益ヲ与フル意思ナクAハ余ノ為メノ受託者



ナリト云フコトナリ、然シ乍ラ之レハ單ナル推定ニシテ、余ノ意思ニヨリ反  
意ヲ拳ケ得ル、余カAニ信託ニヨリ讓渡シテ信託ヲ宣言セサル場合ニ  
ハAハ余カ彼(A)ヲシテ受託者タラシムルヲ意味セサリシコトノ証拠ヲ  
提出スル事ヲ得ス、然ルニAニ普通法上ノ裁判ヲ受フル証書ニ依ツテ決シ  
テ信託ニ付キ茲サレサリシ場合ニハAハ余カ彼(A)ニ賦當享有セシムル真  
意アリシコトヲ示ス証拠ヲ提出スルコトヲ得、  
生存中無償讓渡ニ關スル推定ハ信託ハ贈与者ノ為ニ生スルト云フコトナリ、  
妻子ニ對スル無償讓渡ニ關スル推定ハ妻子ノ為ニ企圖セラレタ真ノ利益ア  
リト云フコトナリ、  
諸君ハ信託信託ニ付キ不明瞭ナル法理ヲ及血族關係ハ信託ヲ発生セシムル  
ニ充分ナル約因ナリト云フ法理ヲ記憶スルナラン、

此ノ場合ニ於テ吾人ハ單ナル推定ヲ有スルニ過キス、 余カ土地ヲ余ノ  
息子ニ及息子ノ為ニ讓渡スル場合推定ハ余カ彼カ土地ヲ享有スハキヲ意味  
シテ信託ハ余ノ為ニ帰屬セ又、カ此ノ推定ハ反証ヲ拳ケ得ル、  
(一)B、 次ニ第二種ノ信託信託ヲ說明スル、

吾人ハ未ダ論セサル場合ハ贈与ノ場合テアリ、而シテ受贈者ハ利益ヲ得ル  
コトヲ得ルヤ又ハ單ニ受託者ヨリ得ルヤ否ヤハ問題ナリ、  
或者カ贈物ヲ買フク其讓渡ハ彼ノ申立テニヨリ彼ニナサレシ證レカニ為サ  
レルカ若キ者ノ名ニヨリ賣買ノ場合ヲ述フ、  
余カ古襲相続不動産ヲ買ヒ賣主ニ余ニ讓渡セヌメニ讓渡セヨト云フ、依  
テ賣主ハ土地ヲメニ及メ、為ニ讓渡スル、  
衡平法ハ余トメトノ間ニ存スル關係ヲ區別シテキル、 簡單ニ述フルナラハ  
此ノ現定ハ次ノ如クニナル、 乃クメカ余ノ妻子ナル場合ニ推定ハ余ハメノ  
為ニ利益ヲ意味シタ、 其故此推定ハ口頭ノ証拠ニヨリ反証ヲ拳ケ得レトモ  
余ノ為ニ信託信託ナシト云フコトニナル、 反之メカ他人ナル場合ニハ反証  
ヲ拳ケ得レトモ推定ハ彼ニ利益ヲ与フル事、 然レバ彼ハ余ノ為メノ受託者ト  
シテ所有スルコトヲ意味セルコトナリ、  
他人ニ付イテ *Legal* 裁判長ハ下ノ如ク述ハテ居ル、 乃ク一ノ例外ナク全テ  
ノ場合ノ明后ナル結果ハ普通法上ノ不動産ノ信託ハ其レカ終身所有權公  
益所有權又ハ債權タルト問ハス、 又其レカ買主及數人共同ノ名義ニ於

318  
886

テナスト又ハ買主ノ名義ナク他人ノ名義ニ於テ又ハ一人又ハ数人ノ名義ニ  
 老テスト共同納ニ又ハ順次納ニスルトヲ河ハ不賣買代金ヲ前払セル者ニ  
 帰屬スルト云フコトニアル。而シテ譲渡ノ約因ナク為サレシ場合ニハ信託  
 ハ譲渡者ニ帰屬スルト云フコトハ普通法ノ規定ニ、嚴格ニ類推サレテナル。

昭和三年十一月五日印刷  
 昭和三年十一月七日發行

不許  
 複製

定價壹圓

譯者 橋本 孝之助  
 發行兼印刷者 今井 彌七  
東京市本郷区森川町一番地

發行所

東京市本郷区森川町一番地  
 昭文社

— 22 —



